





学校に入ろうとする、小学校の低学年くらいなら、外国の子供教員が遊んでいた。見知らぬ訪問者である筆者に気付くと「こんにちは」

日本語で元氣よくあいさつしてくれ

た。千里国際学園は帰国生徒の受け入れを主たる目的に

## 異文化理解する心養う 理想の教育求める校長

設立された私立の中・高だが、一般日本人生徒も通っている。同一キャンパス内にある、外国人生徒が学ぶ大阪インターナショナルス

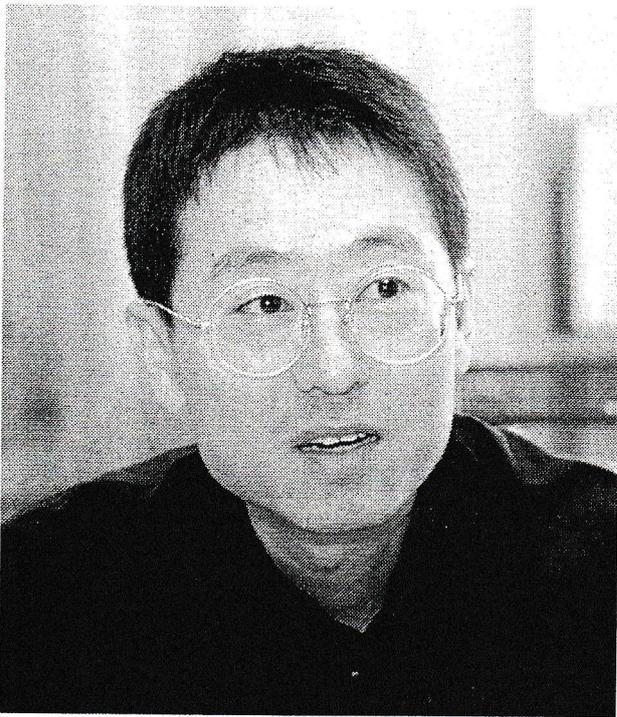
「授業はレポート、ディスカッション、ディベートなどが多く取り入れられています。生徒たちは自主的にそれぞれの課題に取り組んでいます。この学校には校則や制服、生徒指導部がおろか、チャイムさえありません。髪の毛の色など色に染めようが、元から異なる色の髪の子が世界中から集まっていますからね」と大迫弘和校長。

生徒たちは適性や興味に

「この学校でやろうとする教育に、私は絶対的な自信がありません。だれとディスカッションしても受けませんよ」

受験戦争、いじめ、校内暴力、学級崩壊。学校教育

応し科目を選択し、独自の時間割を持っている。得意科目はよりレベルの高いクラスへ。場合によっては分よりの学年の生徒たちが



大迫弘和 さん

■略歴／1953年生まれ。78年東京大学卒業後、鹿嶋市の清真学園に国語科教諭として着任。87年渡英し、現地の私立日本人学校設立にかかわる。千里国際学園の創設を機に91年帰国し同校教諭。99年から校長。著書に「My name is …子どもたちのよき海外体験のために」。日英での経験を生かし、理想の教育に挑む府下私学で最年少の校長だ。

## 関西情報アラカルト

### ■千里の街づくりを考える

国際化時代の教育のあり方を求めて (07/02/16)



#### 千里国際学園中等部・高等部校長 大迫 弘和氏

(おおさこ ひろかず)

1953年、東京生まれ。東京大学文学部卒。87～91年在英、私立在外教育施設の設立に参画。91年、学校法人千里国際学園設立を機に帰国し同校勤務。99年4月より校長。インターナショナルスクール総合研究所所長。著書『A Heartful of Love こころいっぱい愛』（2005年翔文社）、『この国の未来を創る学校―日本型国際学校の可能性』（2006年創友社 共著）ほか、論文多数。

### 帰国生徒・外国人生徒・国内一般生徒が融合して授業

学校法人千里国際学園は間もなく開校16年を迎えます。学園は千里国際学園中等部・高等部（SIS）と大阪インターナショナルスクール（OIS）から成っており、帰国生徒と外国人生徒の両方を受け入れる全国ただ一つの存在です。千里という文教地区に立地する利点も生かし、21世紀の教育モデル校として、日本はもとより世界各地から高い評価をいただいていると思っています。

SISは中学1年生から高校3年生までの帰国生徒・国内一般生徒と日本の教育を希望する外国人生徒を対象に教育を行っています。一方、OISは外国人生徒を対象に幼稚園から12年生（高校3年生にあたる）までの教育を行っています。

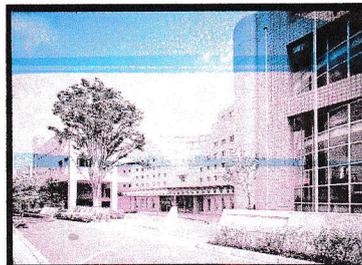
両校はキャンパスを共有し、数多くの合同授業を国際色豊かな生徒、教師たちによって展開しています。中等部1年生から高等部3年生までの両校生徒は音楽、美術、体育、歴史、情報等の授業を合同で行っています。その場合の授業言語は英語です。また、放課後のクラブ活動を合同で行い、生徒会活動、学校行事も合同です。キャンパスは日本一と評価される日英バイリンガル環境に包まれています。

### 21世紀の社会的要請に答えて

SISは帰国生徒受け入れを主な目的として、1991年（平成3年）4月に開校。当時、日本では帰国生徒受け入れを主目的とする高校が東京に2校、名古屋と京都に各1校ありましたが、大阪府下に1校もなかったことから、府内にもぜひ作るべきだという社会的な要請がありました。

もう一つ、大阪の国際化戦略の観点から、海外から関西へ来ている外国人の生徒をお預かりする教育機関が必要という声に答えて、同年9月にスタートしたのがOISです。二つの社会的な要請に同時に対応するため、阪急電鉄グループ、三和銀行（現・三菱東京UFJ銀行）、箕面市の3者が中心となり、一つのプロジェクトとして千里国際学園を設立しました。

SISは学校教育法第1条に基づく“1条校”であり、法的には他の国公私立の中学・高校と変わらない位置づけにあります。これと法的には各種学校となる「インターナショナルス



開校16年目を迎える千里国際学園

### ■サイト内検索

### Contents

- 関西特集
- 週刊ニュースレビュー
- ―浜田昭八のベースボ
- ―坂倉歳（デパート）
- の経の関西イベント
- 話題の一冊
- バーチャルモール
- 関西グルメ特集
- 関西からのおでかけ
- ガムサネット関西
- 有名医に聞く
- 文化探訪
- 関西情報アラカルト

### Back Number

(更新順)

【■ハイク&ウォーク】ススキの原が広がる岩湧山 (07/09/14)

【■編集長インタビュー】文楽に新しいお客呼びびみたい (07/09/10)

【■尾崎ルミの『ガンバ大阪』通信】鹿島・名古屋に連勝！首位浦和に勝ち点「1」差 (07/09/05)

【■尾崎ルミの『ガンバ大阪』通信】手痛い敗戦・ドロー、首位明け渡す (07/08/21)

【■尾崎ルミの『ガンバ大阪』通信】新潟に3-1、ホーム25戦不敗！記録タイ (07/08/14)

【■ハイク&ウォーク】夏の伊吹山で広大なお花畑を堪能 (07/08/03)

【■尾崎ルミの『ガンバ大阪』通信】5-2で浦和

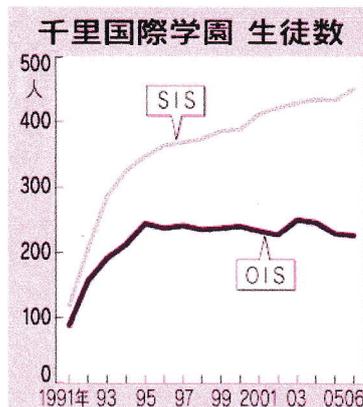
クール」であるO I Sが一つのキャンパスで一緒になって活動するというのは、日本で初めての試みであり、今もってどこにも現れていません。大阪府としてはもっと誇っていい存在だと考えます。この学園に対する全国各地からの関心は高く、調査・研究に訪れる人も多いので、いずれ同様の国際学校が登場することでしょう。

先発の帰国生徒受け入れ校は全国で4校ありましたが、インターナショナルスクールと合同の教育を行うというのは1校もなく、そういう意味では本当のパイオニアでした。参考になるものが全くないままのスタートだったので、それはやっぱり大変苦労しました。

### 多様性の中で生み出される教育

法的には日本の学校であるS I Sと完全にインターナショナルスクールであるO I Sが価値観や教育観を簡単に融合できるものではありません。世界中の価値観、教育観が一つのところに集まって学校を運営していくわけです。しかも私たちは帰国生徒以外に、国内一般生徒でこの教育に興味、共感を持ってくださるご家庭のお子さんもお預かりしています。

約35カ国からの帰国生徒、そして国籍でいうと約40カ国の外国人生徒、それにずっと関西で育ってきた地元の生徒が加わるわけです。その三者を融合させ教育活動を行うというのが基本的な形になっていますので、「一つの物差しで計る教育」を行うことは不可能です。世界中から集まっている教員たちがディスカッションしながら、教育のあり方を編み出しています。そういう多様性の中で苦労しながら生み出される教育は、これまで日本になかったものであり、入試倍率の高まりにも表れているように、その内容が高く評価されてきていると確信します。



学園全体の生徒数は現在約700人。帰国生徒、国内一般生徒、外国人生徒それぞれざっと3分の1ずつの割合です。ほぼ当初目標通りのバランスです。1クラスの定員は24人で、それを超す場合はクラスを増やします。帰国生徒数はその時の経済情勢などによって大きく変動することがあるので、それに柔軟に対応するようクラス数を考えます。

S I Sの開校時の生徒数は101人。16年かけて現在5倍近くになっています。最初のうちはほとんど帰国生徒で、一般生徒は15人ほどでした。その後一般生徒が増え、両者が今では同数くらいになっているわけです。

### 相互啓発でグローバルな発想を

日本には約1300の私立高校があり、日本語で授業しています。一方、文部科学省が「ここを卒業すれば日本の大学を受験してもいい」と認めるインターナショナルスクールが16校あり、すべて英語で授業しています。その中で私たちの学校は日本語と英語の両方で授業する日英バイリンガルスクールです。

国内の大学合格実績でランキングされたり、偏差値で測られたりする教育をする学校ではありません。本当に21世紀の世界で生きていくために必要なトレーニングをしています。こういう教育に共感を持ち、この学園に興味を持ってくださる人たちが増えています。これまでとは全く異質な教育が日本に存在することは日本の豊かさを示すものであり、子供たちにとって必要なものだと思います。

国内一般生徒は帰国生徒、外国人生徒と一緒に学ぶ環境にあって、時に刺激を受け、時に刺激を与え、日々繰り返される相互啓発の中で、グローバルな発想を持った人間として成長しています。ビジネス用語で表現すると、「顧客満足度」はきわめて高いと自負しています。親たちは安心して子供たちを通わせ、生徒たちは誇りを持って卒業していきます。

帰国生徒たちには独特の姿勢があります。外国から帰ってきて、地元の町には友達がいない。この学校が彼らのホームなのです。そういう彼らの間では、ものすごく強い絆があります。例えば中等部1年生の場合、現在54人で1クラス18人という少人数ですが、その中で全員が信頼関係で結ばれています。

### 助け合いの精神が文化

帰国生徒が学校に入ってくる時、最も心配するのが勉強についていけるかどうか、もう一つは友達ができるかどうか。この二つに尽きます。私たちはその不安を取り除くことに努めています。親としてはこれに加え、特に母親は知らない国で大変な苦労をしながら子育てをしているので、その苦労を生かして成長して欲しい

下し、ガンバ大阪  
4強進  
出 (07/07/18)

【■尾崎ルミの  
『ガンバ大阪』通  
信】ナビスコカッ  
プ第1戦、浦和に執  
念のドロ  
ー (07/07/11)

【■ハイク&ウォ  
ーク】トエンティ  
クロスから六甲の  
自然に親し  
む (07/06/29)

【■尾崎ルミの  
『ガンバ大阪』通  
信】強さ炸裂、2  
点差はね返しFC  
東京庄  
倒 (07/06/27)

次の10件を表示

という強い期待を持っています。例えばそれは語学力です。そして海外で身に付けた様々な考え方も貴重です。私たちはそれをしっかりと受け止め、生徒一人一人の豊かな可能性を引き出したいと願っています。

千里国際学園はジャパニーズスクールでもない、インターナショナルスクールでもない「ジャパニーズ・インターナショナルスクール」だと考えています。日本の教育の良さである担任制を取り入れる一方で、欧米の教育で重要な存在であるカウンセラーを置いて、両者が協力しながら生徒のケアに当たっています。

帰国生徒、一般生徒、外国人生徒と一緒に授業を受け、クラブ活動を展開する中で、語学力一つとっても千差万別です。例えば英語による授業についていけない生徒も出てきますが、必ず親切な生徒が現れて、先生とその生徒の間の「ブリッジ」役を果たしてくれます。海外で言葉に苦労してきた経験などが背後にあるのでしょうか。これによって授業のレベルを落とさずに済みます。助け合いの精神は、この学校の文化として成立している気風です。



日本と欧米の教育の良さを融合させ、生徒をケアする

卒業後の進路については、9割くらいが日本の大学に、後の1割前後が海外の大学に進んでいます。この学校では文系コース、理系コース、医系コースといった考え方はなく、生徒一人一人が自分の時間割を組むようになっているので、目標とする専門分野も多種多様です。外国の大学に関して豊富な情報を持っているのが私たちの強みです。

### 地域の小学生集め英語教育も



土曜学校では音楽も取り入れた英語教育も行っている

千里国際学園が成果をあげてきている大きな要因の一つとして、文教地区にあるという地の利は見逃せません。近くにある大阪大学、大阪外国語大学と提携して、高等部生が阪大理学部の実験に参加したり、大阪外大の一般の授業を受けたりするなど、質の高い交流を進めています。両大学としても、中等教育機関との連携という面で意義があるかもしれません。

2001年から「土曜学校」を始めています。北摂を中心とする地域の小学1～6年生を対象に、英語の基礎力を養うためのものです。朝9時から午後3時まで、1クラス18～20人で英語を使って一般の授業をします。生徒数74人で出発しましたが、大変な人気で、現在は500人を超えています。授業は1年間30日で、6年間だと180日になり、吸収力の盛んな年代だけに、発音などの進歩は目覚ましいものがあります。

学園としては、これからもこれまで取り組んできた方向でグレードアップしながら、世界中の教育の優れた点をもっともっと取り入れて、世界に通用するインターナショナルスクールのトップモデルを目指します。

(編集部より……「千里の街づくりを考える」のコーナーは今回をもって終了いたします)

著作権について プライバシーポリシー セキュリティポリシー リンクポリシー お問い合わせ  
日本経済新聞社について： 個人情報の取り扱い | 新聞広告お申し込みガイド | 新聞購読お申し込み

© 日本経済新聞社2007

# 山

# 城

まじめな質屋

金プラチナ  
高価買取!

京阪くずは駅前  
(有)橋本質店

072(8556)1234

## キョウリ やましろ

今年3月、木津川市木津川台に開校した同志社国際学院の初代校長。小學校にあたる「初等部」に続き、秋にはインターナショナルスクールの「国際部」も始動する。「思いやりや探究心、挑戦する姿勢を持ち、世界で活躍する人材を育てたい」と意気込む。

東京都出身で、東京大文学部を卒業後、「文学の素晴らしさを子どもたちに伝えたい」と教員の道に進んだ。日本の学校がヨーロッパ校を新設するのに合わせて1987年にイギリスへ渡り、同

今春開校した同志社国際学院校長

おおさこ ひろかず  
大迫 弘和さん (56)



### 地域に愛される学校に

国のパブリックスクール 約5年間滞在した。で日本語も教えながら、その後、「千里国際学園」(箕面市)の設立に携わるため帰国。校長や

園に携わるため帰国。校長や生徒が帰国するなど、インターナショナルスクールには逆風も吹いているが、「良い教育をしているならば評価される。さまざまものが問われている時期に、教育を通じて希望を示す役割を担いたい」と前向きだ。

先進的な教育に注目が集まる一方、「地域に愛される学校にしたい。学校の存在をまちの発展にも活用してもらえれば」とも語る。また、「同志社の作る学校ということに信頼して来てくれる人面市在住。(笹井勇佑)

詩人の一面もある。学生時代から書き始め、学院の校歌の作詞も手掛けた。「学校づくりでも詩作でも、クリエイターとして新しいことに挑戦していきたい」。大阪府箕面市在住。(笹井勇佑)

南部支社  
〒611-0031  
宇治市広野町西裏 88-6

代表 0774(45)1212  
FAX 0774(45)1214  
nanbu@mb.kyoto-np.co.jp

京田辺・学研総局  
〒610-0334  
京田辺市田辺中央1-1-5 B.I.Tダイエビル3F

代表 0774(63)7433  
FAX 0774(68)1414  
kyotanab@mb.kyoto-np.co.jp

10日 FMうじ 88.8MHz 11日

8.00	クリスピー・タイム ▽京都新聞 ひとときをクリスピータイムと一緒に♪	9.00	宇治市探検 以心伝心888 ▽よく使う絵文字ベスト3 ▽高校野球京都大会 ▽久御山町
9.00	CLASSICS	12.00	耳よりガイド
10.00	HOLIDAY MORNING	13.00	HITS PALADE
12.00	リパバールサウンド ▽ビートルズを中心とした名曲の数々♪	14.00	J-70's mix
14.00	J-POP COUNTDOWN	16.00	城陽パープルタイム ▽地震のときの3大心得 ▽サンガ情報 Zoom Up!
18.00	K STREAM ▽K-POP最新ヒット曲をお届け!	16.50	▽京都新聞 ▽地元の出来事をお届け! ▽久御山町
20.00	SUNDAYHIT	18.00	MITSUのNew Message
22.00	ARTISTISM		▽プレゼント情報
23.00	シネマ・ナイト		

休日診療所 10日 (受け付け時間)

【宇治】前9時半～11時半、後1時～4時半。内科・小児科・歯科。宇治市宇治下唐13ノ2。☎(39)9430。

【城陽】前9時50分～11時半、後1時～4時半。内科・小児科。城陽市富野久保田1フ1。☎(55)1112。(富田芳夫)まで。

【八幡】前11時半～後5時半。内科・小児科・歯科。八幡市八幡園内73ノ3。☎075(9886)3000。

【京田辺】前8時半～後2時半。内科・小児科。京田辺市田辺78。☎(66)26602。

### 人形劇生の魅力感じて

#### 八幡7劇団、きょう披露

3周年を記念してプレゼントするアーモンドチョコレールを作る利用者スタッフ(宇治市神明菓子工房うじがわ)



たち(八幡市男山)



ちかど

## 特集 国際バカロレアの普及・拡大に向けて

～グローバル人材の育成促進を目指す～

大臣官房国際課

「国際バカロレア」(IB)は、国際的に認められる大学入学資格を与えるとともに、学生の柔軟な知性の育成と国際理解教育の促進に資することを目的として、世界140カ国以上の学校で実施されている国際的な教育プログラムです。現在、文部科学省では、グローバル人材育成等の観点から、日本国内でIBを実施する学校の大幅な増加に取り組んでいます。このたび、このIBについて、より多くの世代や立場の方々に幅広い理解を頂くため、日本経済団体連合会との連携により、「月刊経団連」との連動企画として、学生・教育者・企業の方による座談会を行いました。

\*\*\*\*\*

国際バカロレア(以下「IB<sup>1)</sup>という。)は、国際バカロレア機構(本部:ジュネーブ)が実施する国際的な教育プログラムです。生徒の年齢に応じて3つの課程のプログラム(PYP、MYP、DP<sup>2)</sup>)があり、IB機構に認定された学校(認定校)で実施されます。DP課程を履修し、最終試験を経て所定のスコアを取れば、国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア資格)が得られます。また、海外の大学においては、そのスコアが入学者選抜に当たった参考資料として広く活用・重視されており、海外進学のための世界共通の「パスポート」にもなっています。政府は、「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」(平成25年6月閣議決定)において、DP認定校を2018年までに200校に大幅に増加させるとの目標を掲げています。

今回の対談では、井上<sup>いのうえひろし</sup>洋<sup>ひろし</sup>日本経済団体連合会社会広報本部長、大迫<sup>おおきこひろかず</sup>弘<sup>ひろかず</sup>和<sup>かず</sup>広島女学院大学客員教授(IB調査研究室長)・リンデンホールスクール中高学部校長、木村<sup>きむらたけし</sup>孟<sup>たけし</sup>東京都教育委員会教育委員長、IB認定校を卒業しエジンバラ大学理工学部<sup>くろみやままゆみ</sup>に在学中の黒山<sup>くろみやま</sup>真由美<sup>まゆみ</sup>さんに、IBの教育プログラムとしての特徴や導入による効果、今後の課題等について語っていただきました(以下、敬称略)。

<sup>1</sup> International Baccalaureate の略。

<sup>2</sup> PYP(プライマリー・イヤーズ・プログラム):3~12歳を対象として、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。

MYP(ミドル・イヤーズ・プログラム):11歳~16歳を対象として、青少年に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム。

DP(ディプロマ・プログラム):16~19歳が対象。国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア資格)が取得可能。

\*\*\*\*\*

IB との関わり

\*\*\*\*\*

**今里** 最初に、IB との御関係を含め、自己紹介をお願いします。

**井上** 経団連では IB 課程を導入している United World Colleges (UWC)<sup>3</sup>に日本人の若者を派遣するプログラムを 1972 年から実施しており、これまで 500 名以上派遣しています。グローバル人材育成という観点では、主に大学生の内向き指向の打破を目指していますが、その一方で、UWC に留学したいという意欲ある高校生の送り出しが支援のベースになっています。

**大迫** 福岡県にあるリンデンホールスクール中高学部という IB 認定校の校長を務めています。その前から、IB 関係のいろいろな私立校やインターナショナルスクールの校長という立場で PYP、MYP、DP のプログラムをずっと見てきました。2 人の子供も IB を修了して海外の大学へ行き、父親としても IB に関わっています。

**木村** 初めて IB のような海外の大学入学資格について考えさせられるきっかけは、フランス人の友人を通してでした。その友人は理工系の研究者でありながら、非常に哲学的な話をする人間でした。その理由が、彼の受けたフランスの教育に関係があることを知りました。フランス独自の中等教育資格のための共通試験では、日本では想像できないような、非常に深い考察と概念構築を求めるような問題が出されていました。IB も同じようなことが言えます。日本に IB のような教育を取り入れることは、大学の国際競争力を高める観点からも非常に意義があると思っています。

**黒山** 立命館宇治高等学校で IB を履修し、現在は、エジンバラ大学理工学部環境学科で 1 年生として学んでいます。今の大学に入学して、IB を受けてよかったなと本当に実感しています。英語力が向上したことはもちろん、IB が大学で学ぶことを先取りしていたり、タイムマネジメントの仕方やレポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの経験などの学問の面以外でも、IB で学んだことが役に立っていると感じています。

**今里** それぞれのお立場から、IB の優れていると思われる点や特徴についてお伺いしたいと思います。まず、黒山さん、現在実際に大学で学んでいる立場として、いかがでしょうか。

\*\*\*\*\*

考える力を養う

\*\*\*\*\*

**黒山** 中学生時代は、勉強と言えば単語帳を作ったりして暗記するといったことをたくさんしていた覚えがあるのですが、IB ではそういった表面的な理解では全然追いつかなくて、複数の教科を深く学ばないといけませんでした。例えば化学の試験では、ある実験で発生し

---

<sup>3</sup> 世界各国から選抜された高校生を受け入れ、教育を通じて国際感覚豊かな人材を要せ薄ることを目的とする国際的な民間教育機関（本部：ロンドン、カレッジ設置国：イギリス、アメリカ、シンガポール等）

た事象について、「その理由は何か、科学的根拠を示して文章で書け」といったものだったので、深く理解していないと解けませんでした。単刀直入に言うと、学んでいるものの理解の深さみたいなものが、中学までの勉強と IB の勉強の大きな違いかなと思います。

**今里** 木村先生のお話にあったフランスでの試験問題も、考えさせる内容とのことでしたが。

**木村** 独創性・創造性にあふれる人物には2種類あります。一つ目は、エジソンのように一般的な教育を受けなくても独創的な考えを生み出せる人たち、二つ目は、教育をきちんと受けて、それを整理して物事を考える人たちです。教育で育てられるのは後者なので、そこを意識して学校教育は展開すべきだと思います。私の経験でも、個々の知識量をはるかに私が多くても、知識が非常に整理されている人を相手に議論をすると勝てないということがありました。その理由は、頭の中のいろいろなところに、引き出しがしっかりと整理されて存在していて、論理的に考えて出されてくるからなのです。これを実現できるのが IB の教育だと思います。

**大迫** IB の優れている点として、これまでの日本の暗記型の学習に対し、探求型の概念学習を挙げたいと思います。木村先生から「知識の整理」というキーワードが出ましたが、まさにそのことによって自ら概念を作っていく、そして様々な状況でそれを活用できるようにすることを目標にしているのが IB の大きな特徴だと思います。私の IB の教え子で、大変優秀な、論理的思考を問うような問題で素晴らしい回答をする生徒に、日本の大学入試問題を見せたとき、彼は「できない」と言いました。ファクトを記憶するといった暗記型の学習をベースにして、その記憶の量を評価するような現在の日本の教育と大きく異なるのが、IB の特徴だと思います。

**木村** 10年くらい前、日本のある大学の世界史の試験を見て衝撃を受けました。私は世界史が好きなのですが、私には解けないような、西洋と東洋の歴史をふかんにきちんと理解していないと答えられない、まさに IB のような問題でした。こうした問題が日本で出されていたのは、多分、10年くらい前が最後だったのではないのでしょうか。現在、日本も IB のようなふかんにコンセプトを把握する学びに向けて、ゆっくりではあるが進んでいると思うのですが、今のままでは、日本は急速に進むグローバル化に乗り遅れてしまうのではないかと思います。その点で、IB を推進するメリットは相当ある。メリットと言うよりもマストになってきたとすら感じます。

\*\*\*\*\*

基礎学力や人間力を養う

\*\*\*\*\*

**井上** IB では自分の意見を論理的に説明することが求められるので、そういうことをやっているうちに、方法論として、基礎学力的なところも「こういう勉強でこういう知識を吸収していかないと通用しないんだ」ということが分かってきます。IB はその点で優れていると感じます。

**大迫** IB では、日本のように理系と文系を分けて、それぞれ履修する科目を限定するのではなく、高校3年生終了時まで芸術も含めてまんべんなく勉強します。黒山さんも、今はエジンバラ大学工学部で学ばれていますが、もちろん高校では社会科学系の科目もしっかり学ばれているはずです。こうして培われた基本的な力を高等教育で開花させるプログラムになっている点も、日本の教育と違う IB の特徴であり、優れた点でもあると思います。さらに、「全人教育」という点も IB の特徴です。例えば奉仕活動を含めた様々な活動や課題論文など、教科学習以外の活動でも力をつけさせ、よりよい世界の構築のために貢献できる行動につなげていく、という考え方を持ったプログラムでもあります。

**今里** PISA<sup>4</sup>の結果によれば、日本人は学びの意欲が割と少ないと言われてたりもしますが、お話を伺っていて、IB はこうした点もうまく乗り越えていけるのではないかという感じが致しました。



大迫広島女学院大学客員教授、リソテンホールスクール中高等学校校長。国内の多くの学校からの IB 導入に関する相談にも応じている。

---

<sup>4</sup> OECD 生徒の学習到達度調査

# INTERVIEW

## さまざまな文化背景を持った生徒が集う学園



### 大迫弘和

●千里国際学園中等部高等部校長

#### Profile

おおさこ ひろかず／千里国際学園中等部高等部校長、1953年東京生まれ。東京大学文学部卒。1987-1991年英国にて私立在外教育施設の設立に参加。1991年より同年開校の千里国際学園に勤務。1999年より現職。

千里国際学園理事・評議員、千里国際学園土曜学校校長、彩都「未来の学校プロジェクト」委員、大阪府私立中学校高等学校図書館研究会会長、大阪府高等学校国際教育研究会副会長、財団法人箕面市国際交流協会理事等の役職兼務。著書に「My Name is……こどもたちのよき海外体験のために」(影書房)

——本日は大阪の千里国際学園におじゃましております。どうぞよろしくお願いたします。

まず、こちらの学校は、日本では他に例のない学校ということですが、そのあたりからご紹介していただけますでしょうか。

千里国際学園は中学・高校の六年で構成されています。一方の大阪インターナショナルスクールは、幼稚園から高校までで構成される外国人のお子さんをお預かりする国際学校です。この二つの学校は、両校の中学部・高等部が一体となって、中高六年間、一つの

学校として運営されています。

具体的には、音楽、美術、体育といった授業あるいは学校行事・クラブなどを合同で行っています。これらの合同教育活動は英語で行っていますから、千里国際学園の立場からいうと、イマージョンプログラム(※註)になります。

それから、言語系の授業に関しては、私どもの学園には、世界各国からの帰国生徒が多数おります。彼らの中には、第一言語が英語である子どもたちもいるわけで、その子どもたちは千里国際学園の生徒ですが、大阪インターナ

ショナルスクールの授業を受けられるようにしています。大阪インターナショナルスクールは国際バカロレア(IB/二十七頁参照)のカリキュラムを持っており、この授業を受けることも出来るので

あるいは逆に、大阪インターナショナルスクールの外国人生徒で、日本の滞在が長くなっていると、もう見事な関西弁をわあっとしゃべりますから(笑)、そういう子どもたちは、千里国際学園の国語の授業に出られるようになっています。このように両校のどこに在籍しているかというよりも、完全に枠を超えて、その生徒にとつて一番適当と思われるクラスに入る事が出来るのです。特に言語系ではそれを徹底してやっています。

——そうしますと、個人の言語能力への対応だけではなくて、それぞれ個人的な希望によっても細かな学習の選択肢が用意されているということですね。

そうです。選択というのはこの学校のキーワードの一つで、あく

までも個というものを対象に教育をしていきますので、個に基づいた選択というのがこの学校での基本的なコンセプトなのです。

授業に関して、例えば、インダ人のシャミ・ダッタという社会科学の先生は、千里国際学園で授業をするときは日本語で授業をします。大阪インターナショナルスクールで授業をするときは英語でします。両校で行うワールドヒストリーという授業があるのですが、これは合同ですから英語でやるわけです。だから、彼の教室はこの学校の一つのシンボリックな雰囲気を持つています。

その結果、完全な日英バイリンガル環境が形作られていると言う意味で、これだけの国際環境を持ち、個に対応した多様な授業を提供している中等教育機関（中学・高校）は今の日本にはどこにもないと思います。

——校長先生のお話を伺っていますと、確かな教育の理根があつて、その上にこの学校が成り立っているという印象を持ちます。

さらに教育の本質いわゆるソフト面からのお話をしますと、この

学校では、とにかく「考える」ということを大事にしています。ですから、いわゆる参加獲得型の授業、格闘型、ディベート（討論の学習）、ディスカッション（話し合い）、プレゼンテーション（発表による提案）、実験・観察・発表、これらの学習を授業の中で非常にたくさん用意しています。

——表現や発表による授業は、子どもたちの個性を伸ばす意義ある取り組みだと思います。もう一方でお聞きしたいのは、生活面の指導は、どのようにされているのでしょうか。

この学園は、中学生と高校生を対象としていますから、いわゆるしつけというか生活面についても、しっかりと育ててゆく必要があるわけですね。そこで、私たちは「五つのリスベクト」（二十六頁参照）を提示しています。学校はこれしか示さないで、生徒は何か正しくて、何が間違つた行動か、ということ自分で決定してゆく必要があると思います。生徒には自由があるけれど、同時に責任も与えられています。例えば、この学園では、中等部三年生から選択教科が

出てくるので、時間割を自分で組みます。「ああ、この学校では時間割づくりまで考えることのトレーニングとして設定されているんだ」と子どもたちは気がつきます。

授業でも考える、そして授業以外でも「五つのリスベクト」で考えます。「考える」ということでこのキャンパスが覆われているのです。

授業では「考えよう」と言いながら、生活指導において多くの制約を設けることをしますと、二つの違った価値観を示すことになると思います。これは子どもたちにとってダブルバインド（二重の拘束）の状態であると思うのです。こうした状態に配慮して、千里国際学園では、あらゆる場面で「考える」というトレーニングを一貫

して行っています。このような教育の一貫性というものは、どの学校でも持つべきではないか、と私は強く思っています。

——「五つのリスベクト」は、素晴らしいですね。今日の多くの学校では、どのように教育の本質を取り上げようか、と試行錯誤の試みが行われています。

この学園は「五つのリスベクト」だけを掲げています。だけど、たいへん秩序ある生活が行われています。服装なども、落ち着いた、もちろん若者たち独特のファッションというのがありますけれども、あまり細かいことを言わないほうが、かえって秩序ある生活子どもたちが自然に身に備えていくのではないか、という気がしま



※註）イマージョンプログラム（Immersion Program）

学習中の言語（英語）を使って授業に参加しながら言語（英語）を習得する学習方法をイマージョンプログラムという。

## 学校が国際的であるために

インド人で日本史担当のタッタ先生に、「二十一世紀、学校が国際的であるためには？」という質問をしました。

その答えは、世界中どの研究機関、大学、高校でも通用する学習スキルをどのように生徒に獲得させるかということです。例えば大学生になったときに、一つのテーマを決めて、さまざまな観点からその資料を探せるようになることです。また、それを自分なりに分析して、結論をきちんと出せるようになること。さらに、それを文章にして、今度は自分の言葉でプレゼンテーションが出来るようになる——こういう能力というのは、世界中どの学校へ行っても必要です。この学校で授業を受けたら、これについては、たぶん世界中どの学校へ行っても通用すると思います。

今日の授業では、生徒が課題を黒板にこのように書いています。「十六世紀ヨーロッパ人の来日、その後への影響」。

この時代に関して言いますと、信長が何をやって天下統一したのかをまとめるだけでは、つまらない授業になるのです。今日の授業では、その時にどういうモノがヨーロッパから伝わってきて、その後時代の影響がどうだったかを考えました。歴史の項目をまとめるのではなくて、「信長は英雄なのか、悪人なのか」「歴史をどう変えたのか」というふうに、歴史をどう判断するかを考える授業、これが



大切だと思っています。

それから、歴史と現代のつながりですね。高校生は現在についての関心が高いし、自分の身の回りのことには強い興味があります。それと歴史をつないで考えるのです。たとえば江戸時代にいろいろな制度があつて、それが今でも、主従関係だと終身雇用というシステムにつながっていると理解すると面白いし、そこをぜひ味わってもらって、そこでまた「なぜ」を考えることをしてほしいですね。

シャミ・タッタ (Shamini Datta)：一九六九年、インド・ニューデリー生まれのインド人。カナダ、ブリティッシュコロンビア大学大学院修了。千里国際学園と大阪インターナショナルスクールの両校で日本史を担当教諭。

す。反発するものがないですから、そうすると自然に生徒たちが適当と思われるものを選択していくのではないかと思っています。そこに彼らの「考える」という行為が、自ずから存在するようになると思うのです。

このように子どもたちを見守ることによって、そこに何が生み出されるかという、「先生方が私たちが信頼してくれている」という実感だと思っています。それを子どもたちが感じてくれるということが、教育にとって非常に大事だと思うのです。生徒からの作文にも「私たちへの信頼に基づいた教育をしてください」という言葉が出てくるのですが、その結果、彼らは安心感を得ていると思うのです。この学園の子どもたちは、すごくニコニコしているのですが、それは多分、先生方に信頼されていて、そして見守られているという安心感を持って生活をしているからだと思います。

——個に基づいた教育がこの学園の基本姿勢だということですが、先生方が生徒の個を尊重して接するということが、こうした信頼関

係を作っているのでしょうか。そうですね。ここでは複数に対しての教育ではなくて、二人称単数による「あなたのため」の教育なのです。このことを生徒は感じているようです。

——この個に基づいた教育は、こちらの学校から発信される価値がとて高いと思います。また、これが新しい教育のキーワードの一つではないかと感じるところです。そこで今度は、校長先生が考えられる理想の教育とはどのようなものでしょうか。

この学園は中等教育機関（中学・高校）ですから、ここで完結する教育ではなくて、先につながるということを考えています。今の日本には偏差値に基づいた大学ランキング表があつて、希望する大学をそこからピックアップすることにありますが、ここではそれをやめたいな、と思っっているのです。例えば、心理学を勉強したいと生徒が希望した場合、国の内外を問わず、「こういう大学がある」と世界中のすべての可能性を彼らの可能性として示してあげたいのです。日本の大学ランキング表か

## 生徒作文 「五つのリスペクト」(部分)



英語で行われる音楽の授業(バンドのクラス)

「五つのリスペクト」って、本当  
にうまく出来ているなあ、といつ  
も思う。学校にいるときだけじゃ  
なく、いつでも生活の中で必要と  
される大切なものをたつた五つで  
おさえている。(中略)この学校  
に入ってから、私は世界がとつて  
も広がった。今までは「疲れるし、  
汗くさい」と思っていた運動系の  
クラブに入り、その楽器の存在さ  
えも知らなかったヴィオラも始め  
た。学校を通してのちよつとした  
ボランティア活動もたくさん体験

した。いろんなことに挑戦する機  
会がこの学校にはいっぱいあふれ  
ていたから、自分に来ることを  
いろいろ見つけて、それまでは知  
らなかつたあるいは、なんとなく  
止めていたような道が次々と開け  
てきた。今も私は、変化の真つ最  
中である。

(中等部三年国内一般生徒)

「五つのリスペクト」で今、私が  
何より大事だと思つるのは、「他人  
を大切に」です。私が中等部二年  
生でこの学校に編入してきた時、  
みんなが本当に優しくてびっくり  
しました。明るくて楽しくて、い  
つもみんなが笑顔で私に接してく  
れました。今は、学年も関係なく  
友達がたくさんいます。そして、  
何よりも良いのが大阪インターナ  
ショナルスクールの友達がいるこ  
とです。私は本当に英語が好きな  
ので、いっしょに英語でしゃべる  
ことが出来るのです。(中略)私  
がこの学校で学んだことは、自分  
自身が明るく楽しくいれば、友達  
も楽しくなれるし、周りによい空  
気が流れるということです。「物  
事をプラス思考に考えよう」と思  
えるようになりました。

(中等部三年帰国生徒)

らビックアップするのではなく  
て、日本という枠組みを超えた中  
での大学選択を視野に入れて、そ  
れを可能にしたいのです。だから、  
この学園ではそれを可能にするた  
めの教育をしています。そうする  
と、あの偏差値だけの日本の大学  
ランキング表というものを越えて  
いけると思うのです。

——そこには、子どもたちの個性  
や夢をどこまでも大切にすると  
いう教育が感じられますね。最後に、  
この学園のこれからのビジョンに  
ついてお話しただけですか。

一つ一つの教育内容をより充実  
させていくことが一番ですが、同  
時に、常に閉じられていない学校  
でありたいです。その一つとして、  
大阪外国語大学との連携がありま  
す。子どもたちが大阪外国語大学  
の授業を受けにいつて、単位を認  
定しています。また、理系では大  
阪大学の理学部とサイエンス・パ  
ートナーシップ・プログラムとい  
う、これは文部科学省のプログラ  
ムを展開させていただいていま  
す。

もう一つは、ここから車ですぐ  
の所に官民一体になった「彩都」

という二十一世紀型の都市開発プ  
ロジェクトがあります。ここから  
も声をかけていただいています。  
その里山にこの学園の子どもた  
ちが入って、大規模な都市づくり  
と自然環境をテーマとしながら、  
その場を本校の第二キャンパスと  
して使わせてもらうことを考えて  
います。

いくつかの例を上げましたが、  
このように学校をオープンにしな  
がら、常に前向きに動いていると  
いうことが、必要なことだと思  
うのです。新しい発想によって、学  
校全体が一つの生命体として動い  
ていないと、本当の意味で生徒の  
個と向き合うことが出来ないと思  
えるからです。ですから、今後も、  
いろいろな機関と連携を図りなが  
ら、よりよい状態でこの学園を揺  
り動かしていくことを、私はイメ  
ージとして描いています。

——率直に申しまして、とても感  
動しました。貴重なお時間をあり  
がとうございました。

聞き手・菅田博(教育担当)

「グローバル人材の育成」

正式に国際バカロレア認定校となったリンデンホールスクール。英語イマージョンと21世紀型教育で日本のリーディングスクールとして育てあげ、教育改革の起爆剤にする。



リンデンホールスクール 中高等学校  
校長 大迫 弘和

東京生。東京大学文学部卒業。1987年-1991年在英。IB日本アドバイザー委員会委員等要職を多数務め、国際バカロレアの国内普及のため文部科学省及び国際バカロレア機構に協力している国際バカロレア教育の国内第一人者。詩人としても活動している。『国際バカロレアを知るために』（編著 水王舎 2014）『国際バカロレア入門-融合による教育イノベーション』（学芸みらい社 2013）『がっこう』（かまくら春秋社 2012）等著書多数。

2018年までに国際バカロレア (IB) の認定校及び候補校を200校に増やすという閣議決定がなされ、日本でもいよいよ21世紀型学力育成へとシフトチェンジした。このプロジェクトの牽引役でもある大迫弘和校長に、国際バカロレアの目指すものと英語IBを行うリンデンホール中高等学校の可能性について、話しを聞く。

日本の未来をかけた、待ったなしの教育改革

IB校を拡大する国家プロジェクトがスタートして1年が経ちました。4月にIB日本アドバイザー委員会として報告書をだしたところですが、国策として一歩踏み出したこの国家プロジェクトを成功させるために、さまざまな分野の見識者がオールジャパンで頑張っているところです。

そもそもなぜ今日本にIBスクールの作る事になったか。それを一言で言えば、日本のこれまでの教育に限界が見えてきたということとです。最初に押さえておきたい事は、今回の教育改革の動きは、教育界から出てきたのではなく、産業界の切実な思いから沸き起こってきたことだということです。ビジネスがグローバル化していく中で、これまでのやり方を踏襲している、日本は立ち行か

くなりません。今求められている人材が育っていません。そこで、グローバル時代に対応して、日本を引っ張っていきけるような人材育成のために、国をあげて21世紀型の教育改革が行われようとしているのです。そこが、これまでの教育改革とは違うところです。

国際バカロレアは、21世紀型学力を育成する信頼のおけるプログラム

ではなぜそれがIBなのか。それはIBが現状の課題を解決する上で最も信頼できる世界標準のプログラムだからです。

しかし、これまで日本人は極めて緻密に完成された偏差値型教育を受けているので、21世紀型の教育改革を行うためには、それを完全にリセットして新しい価値観



教育改革について熱い想いを語る大迫弘和

を受け入れなくてはなりません。ですが、それは簡単なことではありません。それでも私自身は手応えを感じています。というのも、全国を回っていると「根本的に日本の教育を変えていかなければ、教育者としての責任を果たせない」という熱い思いをもっている先生にたくさん出会うからです。

IBはより良い、より平和な世界を築くことに貢献する若者を育てることを使命にしています。生涯にわたって学び続け、個人及び共同体の幸福を追求していく、そのような人生を生き抜くための準備を整えてあげるのがIBの



化学の授業風景  
自分で実験を考える

教育です。世界の名門大学に進む生徒も決して珍しくありませんが、大切なのは大学でどのように自分の才能を開花させていけるかということです。このような考え方を持つ教育プログラムが世界的に高い評価を得るのは当然のことでしょう。

与えられる教育から、自ら問題を提起し解決していく教育へ

これまでの日本の教育のゴールは試験であり、偏差値をあげるためにひたすら覚えるということをやってきました。でもそこには学びの意味が示されていません。これからはそのようなシナリオを乗り越えていかななくてはなりません。

なぜなら、すでに国という概念が変わっているからです。例えばEUはある意味国という概念を

消した中で、それぞれの国の豊かさを求めています。日本の豊かさや幸せを求めるのであれば、世界の豊かさも求めなくては、日本も豊かにはなれないのです。その地球市民としてのマインドは、IBを習得した生徒には深く根付いています。

IBはもともと世界の様々な国に滞在しながら大学進学を目指す生徒たちの、国際的な共通カリキュラムとして開発された世界共通の大学進学資格で、DIPを終了後統一試験に合格すると、世界2500以上の大学の入学資格として認められます。日本でも東大・京大・筑波大を初めとする国公立大学や早稲田・慶応など有名私大がこぞIBの認定スコアを入学選抜に採用すると発表しました。つまり、IBを卒業した生徒は、世界と日本どちらも同時に出席することができるのです。



良い教師は、良い質問をして生徒に考えさせる

IBの教科学習の内容そのものは日本の学習指導要領と特に変わりはありません。しかし、教える方が根本的に違うのです。日本の



「国際バカロレア認定校」となったリンデンホール中高校校舎外観

充実した施設 個性を伸ばすプログラム

海外研修



高校2年時の夏季休業中に約2週間、海外研修旅行で米国を訪れます。米国名門大学の実際のキャンパスライフに触れるのはもちろんの事、世界銀行・国連等の本部機関の第一線でご活躍の日本人の方々とのセッションを現地で開催、どの様な学生生活・人生経験・キャリアパスを経てグローバルに活躍しているのかを学びます。

寮を完備



男子寮と女子寮があり女子寮は学校から徒歩10分圏内、男子寮はスクールバスで10分です。日本人・外国人寮母寮監が勤務しており、留学生や帰国生徒も多く、一流ホテル並の格調高い内装が特徴です。くつろぎの空間で学習習慣を身につけるには最適の環境と言えます。

国際交流

部築学園グループでは、グローバルな視点で世界各国の著名な学校と提携し、お互いの文化や個性を尊重できる真の国際人の育成に努めています。中高校では、各国からの留学生がチューターとして学習指導をしたり、海外大学進学相談にのったり、また語学研修に出かけたりといった活動を通じて友好関係を深めています。



オックスフォード大学



ケンブリッジ大学

教育は知識を教えるティーチングですが、IBは生徒自らが考えていけるように、ファシリテートするのが教師の役目です。つまり、よい教師というのは、よい質問ができる人なのです。

リンデンホールの英語IBは日本の中でも群を抜いたレベル

このプロジェクトを成功に導くためには、成功事例・リーディングスクールが必要で、私は全国にIBスクールを広げるために文科省と国際バカロレア機構のお手伝いをしていきますが、リンデンホールスクールがそのリーディングスクールとしての役

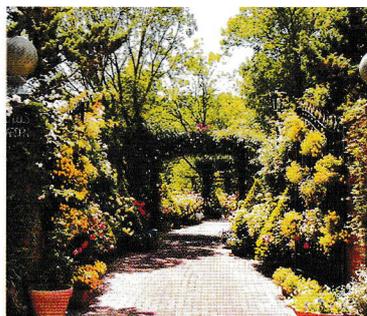
割を担うものとして期待もしていますし、校長として今いる子ども達のためにもなんとかとしても成功させたいと考えています。

リンデンホール中高等学校は昨年正式にIBの認定校となり、今年の4月から高校2年生になる生徒たちがIBを学び始めました。その内容と教員の質は、世界中でさまざまな教育現場を見てきた私の目から見ても群を抜いており、全国的一条校の中でも最高レベルの授業を行っています。

例えばある日の社会の時間に行われていたのは、第一次世界大戦について、それぞれの国の立場に立つて相手を説得するというものでした。この授業を行うためには、生徒たちは事前に第一次世界大戦が起った背景や史実を調べな



イングリッシュガーデン  
日英大学交流のシンボルとして、イギリスのプロの造園家の手による本格的イングリッシュガーデンを造園。一般にも公開しており、地元の方にも利用されている。



くはなりません。そして、その知識を活用しながらそれぞれの立場を相手に理解させるために、論じなければなりません。このような問題解決型の授業を通して、歴史観を身につけ、世界観を育てていくのです。

国際バカロレアを日本に導入するにあたって日本語IBが承認されましたが、リンデンは英語によるIBです。このような授業が英語で成り立つということは、小学部からあがってきた生徒を中心とする生徒たちが高いレベルの英語力を持っていることを意味します。私がリンデンの校長を引き受けた主な理由も、①生徒の質が良いこと。②これまでの採用経験からしても、リンデンの外国人教師のレベルがとても高いこと。③教育環境及び施設が恵まれていることでした。そして1期生が高2になる年に合わせて予定通りIBの認定校となり、また同時に日本全体にIBの風が吹き渡っているという巡り合わせ。まさに「天の時、地の利、人の輪」が揃いました。

2年後に卒業生を出します。彼らは十分にIB生としての力を持ち、必ず世界のためにその力を発揮する人になるでしょう。どうか20世紀型の物差しで評価を下さず、本質を見極めていただきたいと思っています。

提携校

米=ハーバード大学/リンデンホール 英=オックスフォード大学/ケンブリッジ大学 仏=フランス経済戦争大学 カナダ=ウエストバンクーバー高校/セントマイケル高校 豪=フランクストン・カレッジ/ブリスベン高校/ザビエル高校 中国=クリフォードスクール/大連大学/中日合作無錫立信日語進修学院/上海長江創新学院 台湾=台湾南台科技大学 タイ=ラジャマンガラ工科大学

『国際バカロレアを知るために』出版記念シンポジウム

# 日本の教育を切り拓く

IB200校は起爆剤になるか?

---

日時：2014年9月28日(日) 18：00～20：00

会場：イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン  
東京本社内 スカイホール

---

共催：株式会社 水王舎、イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社

---

## パネリスト



### 主賓

## 北城 恪太郎

日本アイ・ビー・エム株式会社  
相談役

1944年生まれ。1967年慶應義塾大学工学部卒業、1972年カリフォルニア大学大学院（バークレー校）修士課程修了。1967年日本アイ・ビー・エム株式会社入社。1986年取締役。常務取締役、専務取締役、取締役副社長を経て、1993年代表取締役社長に就任。IBMアジア・パシフィック・プレジデント兼日本アイ・ビー・エム株式会社代表取締役会長（1999年）、最高顧問（2007年）を経て2012年5月より現職。2003年から社団法人経済同友会の代表幹事、2007年より終身幹事。

主な兼職として学校法人国際基督教大学理事長、文部科学省中央教育審議会委員など。

著書に『経営者、15歳に仕事を教える』（文春文庫）など。

東京都出身。

尊敬する人物は福沢諭吉、好きな言葉は「自由闊達」、趣味は園芸。



## 上野 通子

参議院議員、  
前文部科学大臣政務官

栃木県宇都宮市生まれ。宇都宮大学附属中学校、宇都宮女子高等学校、共立女子大学文芸学部卒業。文星芸術大学附属高校、宇都宮文星女子高校で16年間国語の教師として教壇に立つ。

1997年から3年間家族で渡英。日本語教師を務める。帰国後の2000年、文星国際交流センター長に就任。

2003年、栃木県議会議員選挙に出馬、当選。県議会児童・高齢者虐待問題対策委員長、農林環境委員長などを歴任。2010年、栃木県連初の公募による候補者として参議院議員選挙に出馬、初当選。自由民主党女性局長、文部科学大臣政務官を歴任。主な著書に『みちこの心の共有I~IV』（栃木リビング新聞社）がある。

## 登壇者 紹介



## 鈴木 寛

元文部科学副大臣、東京大学公共政策大学院・  
慶應義塾大学政策メディア研究科教授

1964年生まれ。東京大学法学部卒業後、1986年通産省に入省。

山口県庁出向中に吉田松陰の松下村塾に何度も通い、人材育成の重要性に目覚め、通産省在任中から大学生などを集めた私塾「すずかんゼミ」を主宰した。

省内きってのIT政策通であったが、「IT充実」予算案が旧来型の公共事業予算にすり替えられるなど、官僚の限界を痛感。霞が関から大学教員に転身し、その後の脱藩官僚の草分けとなる。慶応大助教授時代は、徹夜で学生たちの相談に乗るなど熱血ぶりを発揮。現在の日本を支えるIT業界の実業家や社会起業家などを多数輩出する。

2001年参議院議員初当選（東京都）。民主党政権では文部科学副大臣を2期務めるなど、教育、医療、スポーツ・文化を中心に活動。党憲法調査会事務局長、参議院憲法審査会幹事、超党派スポーツ振興議連幹事長、東京オリンピック・パラリンピック招致議連事務局長、超党派文化芸術振興議員連盟幹事長、日本ユネスコ委員などを歴任。2013年参議院議員選挙（東京都）にて惜敗。現在、日本初の国立・私立大学教授同時就任として東京大学公共政策大学院教授、慶應義塾大学政策メディア研究科兼総合政策学部教授に。その他大阪大学招聘教授、中央大学客員教授も務める。

## 寺脇 研

元文部科学省審議官、  
京都造形芸術大学芸術学  
コリア国際学園理事、  
非営利活動法人ジャパン・  
コミッション理事長

1952年生まれ。東京大学法学部に職業教育課長に就任し、大臣官房政策課長、大臣官房秘書長に就任。この間、文部科学省退職後も「ゆとり教育」政策に関するNPO法人カタリバが主宰するイベントをおこなっている他、慶應義塾大学通信制課程共生科学部、その他、教育のみならず映画評論家としての活動も行う。『流官庁』の知られざる素顔から学習権へ』（慶應義塾大学）



## 大迫 弘和

リンデンホールスクール中高学部校長、  
広島女学院大学客員教授 (IB 調査研究室長)、  
IB 日本アドバイザー委員会委員、  
『国際バカロレアを知るために』編著者

これまで千里国際学園中等部高等部校長、同志社  
国際学院 (IBスクール) 校長などを歴任。東京大学  
文学部卒。

主な著書に、『国際バカロレア入門-融合による教育  
イノベーション』(学芸みらい社)、『がっこう』(かま  
くら春秋社)、『The Challenge of DIA-同志社国  
際学院の挑戦』(成文堂)がある。

# 介 PROFILE



マンガ学科教授、

フィルム・

部卒業後、1975年に当時の文部省に入省。1992年  
広島県に教育長として出向した後、文部省に復帰した。  
審議官を歴任。当時文部省が推進していた、いわ  
の旗振り役として活躍した教育の専門家。2006年に  
育」推進の立場から発言を続けている。

塾「カタリバ大学」の学長を務め、教育や学びに関  
京都造形芸術大学芸術学部マンガ学科教授、星  
客員教授、コリア国際学園理事を務める。

論家や落語評論家としても活躍。『文部科学省-「三  
中央公論新書』、『学ぶ力』を取り戻す-教育権か  
版会)など、著書多数。

(五十音順)

## パネリスト (共催者)

### 出口 汪

株式会社水王舎代表取締役、  
広島女学院大学客員教授、  
論理文章能力検定顧問、  
教育プロデューサー

関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。

多数の受験参考書がベストセラーとなり、入試現

代文の講師として圧倒的な支持を得ている。「すべての土台は言語である」と考え、「論理力」育成の画期的なプログラム『論理エンジン』を開発。多数の学校が正式採用している。『論理エンジン』の普及と日本の教育の改革を目指し、全国で講演・指導をしている。



### 中村 淳之介

イー・エフ・エデュケーション・  
ファースト・ジャパン株式会社  
代表取締役社長

2013年よりイー・エフ・エデュケーション・ファースト・

ジャパン株式会社 (EF) の代表取締役社長として、

EFの語学教育サービスのすべてを統括。また拡

大する日本国内7拠点すべての事業を管理。現職以前は、EF営業統括責任者として、企業のグローバル人材育成を目指した人事研修プログラムの策定及び遂行に従事。また地方自治体と連携し、留学プログラムを立案、推進、実行支援を行う。2010年EF入社。中高生向け語学教育プログラムのたちあげに携わり、高校での留学プログラムの導入を促進、支援。EF入社以前はコンサルティング会社にて企業再生に携わる。数多くの企業に対して、経営再建計画の策定から、実行の支援まで、ハンズオン型の企業再生支援を実行。

明治大学商学部商学科卒業。2009年米国クレアモント大学院大学ピーター・F・ドロッカー経営大学院卒業。

(五十音順)



### 鈴木 ともみ

総合司会

経済キャスター、ファイナンシャルプランナー、  
FP技能士、日本FP協会認定講座『FP会話塾』講師、  
株式市況中継番組『東京マーケットワイド』キャスター、  
日本記者クラブ会員

国内外のVIP、企業経営者、マーケット関係者、ハリウッドス  
ターを始め映画俳優、監督などへの取材は2000人を超える。

現在、テレビ、ラジオへの出演、雑誌、ニュースサイトでの連載執筆の他、経済シンポジウムやセミナーでのコーディネーター、大学や日本FP協会認定講座にて「会話力&取材力で未来を拓く」をテーマにゲストスピーカー・講師を務める。主な著書『デフレ脳からインフレ脳へ』(集英社)。

「これからの経済」をテーマにした講演多数。2014年2月、一ツ橋総合財団主催「文化講演会」経済作家講演者(過去には浅田次郎氏、北方謙三氏)に選出される。



# PROGRAM

1

18:00~18:05

## 主賓御挨拶

北城 恪太郎

日本アイ・ビー・エム株式会社 相談役

2

18:05~18:10

## 共催者挨拶

中村 淳之介

イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社 代表取締役社長

3

18:10~18:25

## 基調講演 『IB導入の持つ意味』

大迫 弘和

リンデンホールスクール中高等学校校長、  
広島女学院大学客員教授 (IB調査研究室長)、  
IB日本アドバイザー委員会委員

4

18:25~18:50

## パネルディスカッション 1

### 『IBと大学入試』

● 大迫 弘和

● 出口 汪

株式会社水王舎代表取締役、広島女学院大学客員教授、  
論理文章能力検定顧問、教育プロデューサー

● 中村 淳之介

(五十音順)

休 憩

5

19:00~20:00

## パネルディスカッション 2

### 『IBは黒船か？ 日本の教育を切り拓く』

● 上野 通子

参議院議員、前文部科学大臣政務官

● 大迫 弘和

● 鈴木 寛

元文部科学副大臣、東京大学公共政策大学院・  
慶應義塾大学政策メディア研究科教授

● 出口 汪

● 寺脇 研

元文部科学省審議官、京都造形芸術大学芸術学部マンガ学科教授、  
コリア国際学園理事、非営利活動法人ジャパン・フィルム・コミッション理事長

(五十音順)

■ 総合司会

鈴木ともみ

経済キャスター、ファイナンシャルプランナー、FP技能士、日本FP協会認定講座「FP会話塾」講師、  
株式市況中継番組「東京マーケットワイド」キャスター、日本記者クラブ会員



国際バカロレアについて紹介する大迫弘和特任教授  
—都留文科大

# 国際バカロレアで 人間の基礎形成

## 教員養成めざす都留文大 大迫特任教授が講座

同大特任教授の大迫弘和さんは、日本で25年間IB教育に携わっている第一人者。大迫さんによると、IBは世界140以上の国・地域で実施。3〜19歳まで、年齢に応じて四つのプログラムがあり、日本ではそのうち高2、3年に当たるディプロマプログラム(DP)を導入しようとしている。

### 芸術含む6科目

DPの教科は、「言語と文学」「国語」「言語の習得(外国語)」「個人と社会」「理科」「数学」「芸術」の計6科目。一定の成績を収めると国際的に通用する大学入学資格が取得でき、世界の名門大学に進学する生徒も多い。「大学受験に必要なことから、高2、3年で芸術科目を扱わない日本の進学校とどれだけ違うでしょうか」と大迫さん。「18歳までは人間の基本をつくる時期。IBには人生のために、あらゆる領域をあまねく勉強して基礎をつくるという考えがある」

### ズーム

国際バカロレア(IB)、ジュネーブに本部を置く、国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム。1968年、国際的に通用する大学入学資格(国際バカロレア資格)を与え、大学進学へのルート確保を目的に設置された。山梨県内の認定校はないが、県教委が甲府西高へ20年4月の導入を目指し、山梨学院高が17年度からの導入を見据え、本年度から「国際アカデミックコース」を開設。駿河甲府高も候補校で、認定に向けた準備を進める。

## 「学び続ける人」育てる教育

修の取り組みがあり、教科より上位に位置付けられる。数学などの成績が学年トップでも、必修がおろそかだと修了証書は与えられない。「教科の勉強より、もっと大事な人間としての基本がある。テストの点数や偏差値さえ高ければ良いという考えとは正反対です」

「探究する人」「知識のある人」「考える人」など10の目指すべき「学習者像」があり、「生涯にわたって学び続ける人」を育てる教育になっているという。

では、どんな授業になるのか。「外国産のプログラムなので必ず英語で実施すると誤解している人も多いが、日本では日本語で実施される」と大迫さん。また、IBは子どもが主体的に学ぶ「アクティブラーニング」が特徴。ディベートやプレゼンテーション、共同学習などの活動を通じ、自ら課題を見つけ、考え、解決に向けて

探究する。現在、実施されている「総合的な学習の時間」と同じものと考える人がいるが「似ているが全く違うもの」という。

### 時代を生きる力

IBのアクティブ・ラーニングは、明確な目標設定があり、どうやって考えるのか、どうやって問いを立てるのか、教師が具体的な方法を示して、①考える力②社会性③コミュニケーション力④自己管理能力⑤調べる力を付けていくことができる。評価方法も確立されているため、世界的に認められているという。

2020年に移行する新学習指導要領は、アクティブ・ラーニングが重視されるなどIBに重なる部分が多く、大迫さんは「偶然ではなく時代の必然性」と見る。これまで日本は先生が知識を与え、子どもは試験のために「答え」を覚える事実丸暗記型の教育だった。情報技術の高度化やグローバル化の進展で、知識は常に更新され、環境や平和などに関する未知の問題が山積。これからの時代を生きるには、IBのように「考える子」を育む教育に転換する必要があると説く。「戦後70年で今の日本があるのは、これまでの教育のおかげだが、勇気を持って次の段階に入らなければいけない」



## 都留文大特任教授・大迫弘和さんが第4詩集



大迫弘和「定義以前」



都留文科大特任教授、山梨学院教育特別アドバイザーなどを務める教育者・大迫弘和さん(63) 大阪府 詩人としても活動している。このほど、第4詩集「定義以前 Beyond Definition」を出版した。表題作「定義以前」をはじめ、「ひとひら」「ころ」といのち」など約30編を収録した。「存在は、言葉で定義されている以上に奥深いもの。定義は言葉によって決められるが、存在するものにとって言葉とはどんな意味があるのか」という問いが創作のテーマ。詩を通し、存在

### 「存在と言葉の意味」問う

「存在するものにとって言葉とはどんな意味があるのか考えたかった」と話す大迫弘和さん  
 甲府・山日YBS本社

と言葉の意味を探った。

全編英訳付き。長女の明日奈さん 二ニューヨーク在住 英訳を担当した。タイトルの「以前」は言葉通り「before」とせず、詩の意図をくんで「beyond」(を)を超えて)と訳したという。

高校時代、「なぜ生きるのか、なぜ生まれてきたのか、存在への問いから詩作を始めた」という大迫さん。創作の原点は、大迫さんの教育観にも通じる。

大迫さんは、国際バカロレア教育に25年以上携わる第一人者。受験のために知識を詰め込む事実丸暗記型の既存の教育に疑問を持ち、「本当の教育」を問い続けてきた。「本当の教育は何か、大切なものは何か、今も探っている」

「定義以前」は遊行社刊、2376円。

〈桑原久美子〉

# 国際バカロレアが目指すものは何ですか

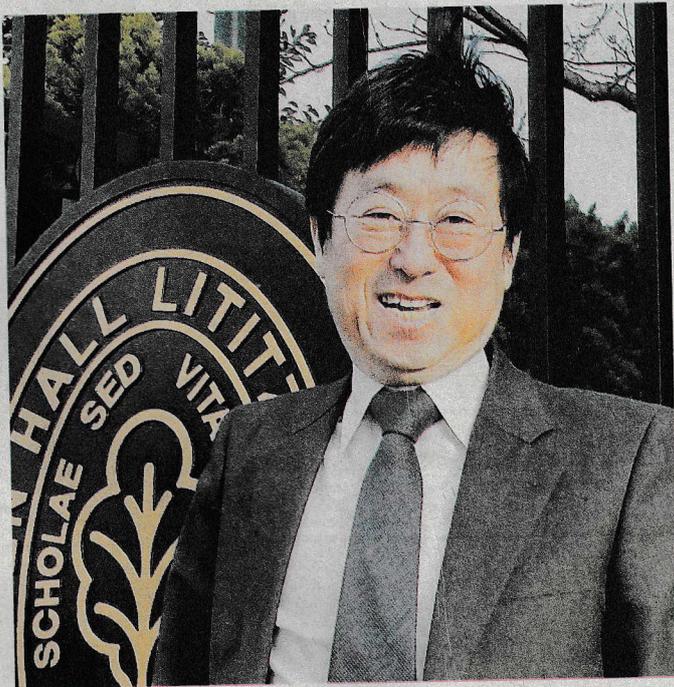
# 「覚える君」ではなく「考える君」になること

リンデンホールスクール中高学部(筑紫野市) 大迫 弘和校長(61)

## 先生聞かせて

世界各国の大学入学資格が得られる教育プログラム「国際バカロレア(IB)」は、その国内第一人者として知られる。2013年4月、リンデンホールスクール中高学部(筑紫野市)の校長に就任。その年の秋、同校はIBの中で16〜19歳を対象にした「ディプロマプログラム(DP)」の認定校になった。学校教育法1条で定める「学校」では、九州沖縄地区で初めてだ。

「生涯にわたって学び続けられる人。それがIBの目標」と言う。通信機器の発達で、知識は日々更新され、膨大な情報があふれる世の中になった。必要な情報の探し方や真偽を確かめる力、そこからどんな問題を発見し、どう



解決するか……。これからはそうした力が求められると考える。

だから、教科書で知識を得る教育ではなく、課題を見つけ、より深い概念の理解を促すことに重きを置くIBの教育が日本にも必要だと説く。

「『覚える君』を作ってきたのがこれまでの教育なら、IBは『考える君』を育てる教育だ」

IBでは、学ぶ姿勢とスキルの徹底的に鍛える。核となるのは100時間にわたる

「TOK(Theory of Knowledge 知の理論)」と言われる科目。

「人の記憶は正確か」「視覚は写真のように正しいか」。そのような教科を超えたテーマでクラスメートと議論をする。未知の問題に遭遇した時に解決策を見いだせるようになるという。

教師の役割も変わる。これまでが「教える役割」とすれば、IBは生徒に探究心を持たせ、考える過程を支援する役割だ。一方で「IBの理念

は学習指導要領にも合う」とも言う。「単に知識を伝えるのではなく、その意味や概念を考えさせている先生は日本中にたくさんいる。これをちゃんとプログラム化したのがIBと捉えてほしい」

国際バカロレア(IB) 1968年発足の国際バカロレア機構(本部・スイス)

が定める教育プログラム。年齢などに応じて四つあり、日本の高校生向けにあたるのが「ディプロマプログラム(DP)」。

の大学が採用。日本でも、東京大や早稲田などで導入が広がる。

国内のDP認定校は現在20校。主にインターナショナルスクールや私立校だが、札幌市教委が今春新設する市立中高一貫校が認定校を目指すなど、公立学校でも動きが出てくる。国は13年、IB認定校を200校に増やす目標を掲げた。

横浜出身。東大ではロシア文学を専攻し、自ら詩も書き詩集も出す。「いつかは筆一本で生きよう」と思いながら、卒業後は私立高校に国語教師として就職。穴埋めや選択問題ではなく、生徒に考えを書かせる授業をひたすら展開した。

「先生聞かせて」は今回で

25年ほど前にIBに出会い、それまでの自らの実践と同じだと思った。99年からは、千里国際学園中等部高等部(大阪)や同志社インターナシ

「先生聞かせて」は今回で終わります。(山下知子)

# 国際バカロレア教育が育てる地球市民

大迫 弘和

武蔵野大学 教授

司会：時間になりましたので、基調講演②に移らせていただきます。本日の基調講演②は国際バカロレア教育が育てる地球市民について武蔵野大学教育学部教授、大迫弘和先生にお願いしております。大迫先生は東京大学文学部をご卒業された後、千里国際学園中等部・高等部校長、同志社インターナショナルスクール校長、IB日本アドバイザー委員会委員等を歴任され、現在、武蔵野大学文学部教授、千代田インターナショナルスクール東京学園長、都留文科大学特任教授等を兼任されていらっしゃいます。また、国際バカロレア教育の国内第一人者として知られ、文部科学省及び国際バカロレア機構に協力し、国際バカロレアの国内普及にご尽力されております。本日は基調講演をお願いできますことを大変光栄に存じております。大迫先生それでは宜しくお願い申し上げます。

大迫：みなさんこんにちは。今ご紹介いただきました大迫弘和です。劇作家・平田オリザさんの話があまりに面白すぎて、聞き惚れてのめり込んで、「そういえば僕が次話すんだ」ということをほとんど忘れていたのですが。平田さんは先ほど前座とおっしゃったのですが、重なるところがすごく多かったので、2人で合わせて一本というような感じの基調講演となれば良いなと思います。

ダブルバインドという話が最後に出てきましたけれど、子どもたち、日本の学校教育、特に

初等教育では先生方は「協力」や「仲良く」や「力を合わせて」といったことを、日常的に口にされます。すごく大事な言葉です。子ども達はそれに従って学校生活のなかで頑張ったりするわけですが、学習塾では全く違う価値観で「受験競争の勝者になれ」と言われます。子ども達の状況はそういう意味でもダブルバインドの状態というのはずっと続いています。そんなことも重なり合いを感じた一つで、今日ではできるだけ「合わせて一本」を考えながら国際バカロレア（IB）についてお話をしたいと思えます。

ご紹介にもありましたが、劇作家・平田オリザは知らない人はいない超有名人ですが、僕もIBの世界では超有名人なのですよね。「大迫が来た」と言うのと「あ、今日はすごいな」という感じなのです。しかしIBを誰も知らない。だから三段論法で言うと、「大迫はIBの世界では超有名人だ。しかしIBそのものが日本ではほとんど知られていない。それゆえに大迫はIBの関係者だけにしか知られていない著名人」ということになります。ということで今日のお話は、まず「国際バカロレアをご存知でしょうか？」から始めたいと思います。

「大迫」という名前でも最近…わかるでしょ？何を話すか。ワールドカップで私の甥っ子の犬が…と言うと場内がシーンとなるんですが、甥っ子ではありません、半端ない大迫は。ワールドカップでベルギーに負けてしまいました

…平田さんのようにワールドカップを見た方に「手を挙げてください」とは言いません。(笑) 例えば、日本から5人、North Korea、South Koreaから5人ずつ、Chinaから5人で20人のうちそれぞれの国で一番サッカーの上手い5人に出てもらおう。だからJapan・Korea・China JKC20みたいなものを作って、ベルギーと試合をしたらどっちが勝つかというようなことを、試合後に思ったりもしました。やはりサッカーはチームプレーなので、サッカーの上手な人だけが集まっても単純にはいかないかなと思いました。IBをやっていると、そういう一つの国に留まらない発想が出てくるのかなと自分自身で最近思ったりしています。

今日の話の流れは、先ほど申しあげましたように、まずIBについてご紹介して、それから次にIBを終えた生徒たちが世界中の大学から歓迎されているのはなぜか。そこの部分でIBプログラムについて少し紹介させていただいて、最後に今日のテーマとして設定されています「IBが育てる地球市民とは」というお話をしていきたいと思えます。

前提として、ナショナル・カリキュラムとグローバルスタンダード・カリキュラムという2つのカリキュラムについてのお話をしていきます。カリキュラムは非常に大きくカテゴライズすると、この2つになるわけですね。

*National Curriculum (国のカリキュラム)*

その国の文化・伝統・歴史・価値観を背景とした  
その国のよき国民を育てるためのカリキュラム

*Global Standard Curriculum (世界標準カリキュラム)*

世界のどの国にも通じる、地球規模の視点を持つよき  
地球市民を育てるためのカリキュラム

1つは、その国が持っているカリキュラム。初等・中等教育の場合、日本では学習指導要領と呼ばれるものが、このナショナル・カリキュラムにあたります。ナショナル・カリキュラム

というのは、その国の文化・伝統・歴史・価値観等を背景とした、その国の良き国民を育てることを目的としたカリキュラムです。それぞれの国の文化・伝統・歴史・価値観、それからその国のその時点での目標とかを背景としていますので、ナショナル・カリキュラムは国によって異なるというのは当たり前のこととなります。先ほど何回か出てきましたフィンランドのナショナル・カリキュラムと日本のナショナル・カリキュラムは本当に違う。それは、それぞれの国の持っている基本的価値観・目標が違っているということにあると思います。

そしてカリキュラムにはもう1つ別のものがあります。グローバルスタンダード・カリキュラムと呼ばれているものです。世界標準カリキュラムと呼んだりもします。それは、世界のどの国にも通じる地球規模の視点を持つよき地球市民を育てるためのカリキュラムとしてプログラム化されたものです。

上のナショナル・カリキュラムがその国のために、そしてその国に属するというで言うと、グローバルスタンダード・カリキュラムはどの国にも属していません。しかしそれは恐らく逆の言い方のほうが正しくて、グローバルスタンダード・カリキュラムは世界のどの国にも属することができる。このカリキュラムを学んだ子ども達は世界のどの国でも生きていくことができる。そのための準備をさせてあげるのがグローバルスタンダード・カリキュラムということになると思います。

今日ご紹介するIBについてよく質問がきます。「大迫先生、IBはどこの国のものですか?」。回答は「どこの国のものでもありません」。基本的には欧米の英知を結集して作り上げられたプログラムということが正しいということになりますが、どこの国にも属してはいない世界標準カリキュラムです。世界標準カリキュラムのなかで、いま2018年というこの段階で、最も完成度が高く、世界で最も高く評価されている世界標準カリキュラムが国際バカロレ

ア (IB) ということになります。

今、日本の国の教育の方向性は、この図で言うと、国のカリキュラムの中に世界標準カリキュラム的な要素をできるだけ入れていこうではないか、というのが基本の流れだと考えればよいのかもしれませんが。今までは国のカリキュラムは、国のカリキュラムとしてがっちりやってきたわけですが、それだけではダメであろうということで、世界標準カリキュラム的な要素を入れていこう、というのが大きな流れだと考えます。なぜかという、「今日的及び未来的状況」と書いてありますが、皆さん日常的に耳にしている言葉を並べていますけれども。こういう状況のなかで、今までやってきたカリキュラムのままこれからの時代を子ども達が生きていけるならば、今までのカリキュラム通りにやればいい。決して悪いカリキュラムをこの国はナショナル・カリキュラムとしてやってきたわけではないので、ある意味世界に誇ることができるぐらいの内容を持ったカリキュラムを持っている国ですから、そのままやればいわけです。しかしこの状況を考えたときに、戦後75年続けてきた教育をこのまま続けていいかということに対しての答えは明らかで、それは違うだろうということです。そこが、今日本が教育改革というものを志向している大きな根拠だと思います。

わが国の世界標準カリキュラム化という流れの始めはこころ辺かなというのが、2011年6月にグローバル人材育成推進会議というのが東京で行われていました。

2011年6月「グローバル人材育成推進会議」  
中間まとめ

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

このほか、「グローバル人材」に限らずこれからの社会の中核を支える人材に共通して求められる資質としては、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等を挙げることができる。

これは日付を見ると日本人であれば、すぐあの頃だと、東日本大震災の直後ですよ。あのときに東京ではこんな会議が行われていました。政界・財界・教育界が一緒になって動いた形の会議だったのですけれども、このグローバル人材育成推進会議を取りまとめたのが鈴木寛という人で、彼がこれを引っ張ってまとめてここまで持ってきて、今の教育の国際化の牽引役を務めていると考えます。

大震災の後、民主党政権から自民政権に替わって、流れが変わったかという、この部分については政権が替わってもこの流れは変わりませんでした。そしてこの会議で、初めて国のレベルで「国際バカロレア (IB)」という名称が浮上しました。これも先ほど申し上げました鈴木寛というこの会議のまとめ役だった人物がしたことだと思いますが、「IBの導入を図ること」という少し曖昧な表現だったのですけれども、この会議で初めてIBというものが国の中で浮上してきました。と同時に、文部科学省の中ではIBに通じている人間がいないので、私がこの時点で呼ばれてIBについてのアドバイザー的な役目を始めたのがこの時期から少し後になります。

こういう流れのなかで、2013年の6月に閣議決定という形で、一部日本語によるIBの教育プログラムの開発・導入等を通じ、IB認定校の大幅な増加を目指す。2018年までに200校という数値目標はまだ達していないのですけれども、具体的に国の戦略として決定して関係者が動き始めたということになります。

IBには色々なイメージや「それは絶対違うな」という捉え方も結構国内では存在しています。まず、Alec Peterson というIBの生みの親と言われているスコットランド人の教育者・哲学者、軍人でもあったのですけれども、彼がIBを生み出す時に残している言葉です、「自己の内的環境と外的環境の両面における身体的・社会的・倫理的・美学的・精神的な側面を理解し、修正し、享受するために、個人の能力を最

大限に育てる」ということを言っています。

「生徒が国際的な視点や理解を身に付けるのを促すことは不可欠ではあるが、それだけでは十分ではない。生徒は社会に望ましい貢献をするためのスキルや価値観、そして行動する意志をも身に付ける必要がある。責任ある市民とは、コミュニティに積極的に関わり共感できる心を持つ、豊かな知性を持った市民である。若者が精いっぱい人生を楽しむよう促すこともまた重要であり、全人的な教育には人生体験を豊かにしうる芸術や娯楽、スポーツに触れることも含まれる。全人教育を完全なものとするには、余暇を楽しむことも推奨されなければならない。」

1968年、スイスのジュネーブでIBは誕生しました。よく日本で使われる表現で言うと、「50年の節目」というのが今年2018年になります。ここに書いてある Alec Peterson の言葉が、国際バカロレアというプログラムの根底に横たわっている考え方・価値観であるということをもまずお示しして、2番目のところで申し上げたように少しプログラムの説明をいたします。まず誕生のときにこういう考え方に基づいて生まれたプログラムであるということをお示ししておきたいと思います。

IBのディプロマ・プログラム(DP)は、1968年スイスのジュネーブ・インターナショナルスクールで学んでいる高校生たちのために作られたプログラムです。具体的に言うと、1968年当時のスイスのジュネーブ、大戦が終わり20数年経過していますから、ジュネーブが国際都市の様相を再び呈していて、世界中の子供たちがスイス・ジュネーブのインターナショナル・スクールで学んでいる。彼らはそこで高校生活を終えた後に、母国の大学を受験しようとしてもできない状況でした。例えばイギリスの大学を受ける場合、最終2学年でAレベルという勉強をしてなくてはいけないのですけれども、それはもちろんイギリス国内でないと受けられません。イギリスの子がジュネーブで過ごし、大学

は自分の国の大学に行きたいと思いイギリス国内の大学にアプライしたとします。イギリスの大学からはAレベルの結果の提出を求められます。彼・彼女は「すみません、私は国を離れていたのではAレベルを受けていないので見せられるものはありません」と答えざるを得ませんよね。そうするとイギリスの大学は、「あなたはイギリスの子だけれども残念ながら受験することはできないわね」ということになってしまったわけです。

それが世界中の国に多発していて、彼らを何とか救済しなくてはいけないだろうということで、どの国でもその国の制度と同等として見られるプログラムというのをきちんとやらせてあげて、それをもってそれぞれの母国・祖国での受験というのを可能にするシステムというものを生み出そうということになりました。それで生み出されたのが、このIB・DPプログラムという高校2年生3年生の2年間のプログラムです。この2年間は今申し上げた、イギリスのAレベルの2年間というのを模しているのですけれども。

DPが誕生した1968年以降、同じ状況でイギリスの子が祖国を離れている、大学は自分の国の大学に行きたい、イギリスの大学にアプライをした、「Aレベルを見せてください」と求められる、「Aレベルはやっていません」。前は「じゃあダメね」と言われたわけですがけれども、その高校生は「Aレベルはやっていないけれども、私はジュネーブでDPを修了しています」、イギリスの大学は「それだったらあなたはイギリスの大学を受けることはできますよ」と大きく変わったのが、IB・DPの誕生の背景にあったわけです。

ということで、大学受験に対して、母国を離れている高校生たちの不利益を解消しようというところから生まれたプログラムなのです。それ故、IBが大学入学のための特別プログラムのようなイメージが特に日本の国内には蔓延しているところがあるのです。それで先ほど敢え

て、IBの生みの親である Peterson の言葉を示しました。

今、日本語でこの表を見て頂いています。



先ほど、国として国際バカロレアをこの DP というプログラムを拡大していこうという案が出たときに、実はこの国際バカロレア DP を実施できるのは、英語・フランス語・スペイン語だけだったのです。高2高3の各教科の学習内容を英語・フランス語・スペイン語で勉強できる高校生ってこの国にどれだけいるでしょうか。ほとんどゼロに等しいと思います。できるのは帰国生徒であったり、小さい時から特別な環境にあって英語が自分の言語になっているような、本当にすごく稀なケースだけで。日本で生まれ育った高校生たちにこの DP を提供することなんてできない。

内容として IB というのはたしかに国際標準プログラムとして圧倒的強さを持っていますので、それを本当にやりたいのならば、日本語でできる環境を作らなくては行けない。ということで、ジュネーブに本部がある IB を国際バカロレア機構 (IBO) と、IBO としてはアジアの言語でそれをやるというのは本当に信じられないことだったのですけれども、文部科学省が IBO と本当に粘り強い交渉を続けて2013年の3月に日本語で IB をやるということが両者のなかで合意に到達したということがあります。

国際バカロレア機構は、「IBO としての我々はインターナショナル・バカロレアという『国

際』という言葉を使っているのだけれど、本当の意味では国際ではないのではないか」という内部議論が2007年頃から実はあったんですよ。アジアとかアフリカとか全然含んでいないのではないかという意味で。本当の意味でインターナショナルという広がりを持ちたいという彼らの戦略と、それから国際標準プログラムというのを日本の国の中に少しでも入れていきたいという両者の思惑が合致したことが、日本語プログラムが誕生した背景にあったということが言えます。DP では世界統一試験というのをやるのですけれども、英語・フランス語・スペイン語以外、現在では日本語でもできるようになっています。

例えば、世界統一試験は5月と11月に北半球・南半球でやるのですが、問題は一緒です。問題文は例えば、「IB 物理」という問題があって、今までは英語・フランス語・スペイン語で同じ内容が出ていたのですよね。子ども達は自分のできる言語で答える。そこに同じ内容が日本語で出てきているというだけで、日本の子ども達のために問題が変わるわけではないです。カリキュラムは一緒ですので。ただ、カリキュラムを運用している言葉が日本語で、最終試験も日本語になるとなったのが2013年ということになります。

内容については後でお話しますが、申し上げたように高校3年間のうちの後半2年間、6つの教科とブルーの部分3つのコアというのですけれど、必修の課題という9つの学びをやっていくのが IB のディプロマ・プログラム (DP) です。

これは1968年に生まれて今50年と申し上げましたが、MYP というのが1994年にできました。26年後になるのですけれども、これは厳密に言うとならば日本の学年にあてて言うと小学校6年生から高校1年生の年齢にあたるのですけれども、日本の学校では主に中学校で実施するプログラムになります。これは最終試験というのが無く、元々何語でやってもいい言語縛りが無いプロ



ラムですので日本語でもできます。このMYP (Middle Year's Programme) というものは先ほどからご紹介しているディプロマ・プログラム (DP) の準備プログラムという意味があります。DPを2年間だけでやるのはなかなか生徒たちにもしんどいかなというところがあり、少し前からIBの理念に基づいた指導方法・学習方法による教育プログラムを提供するのが良いのではないかとこのので考えられたのがMYPです。

さらに1997年、20年ほど前になりますが、3歳から小学生にあたる初等教育の段階のプログラム、Primary Year's Programme (PYP) が誕生しました。これで3歳から18歳までの一貫したプログラムというのが誕生したということが、IBの歴史になります。

PYPですが、そもそも初等教育と中等教育というのが根本的に違います。日本でも小学校



までは学級単位の先生が全部見てくださいますよね。中等教育になってから、各教科の先生が出てきてくださるという状況で、初等教育と中等教育は教える形態からもその違いがはっきりしています。IBもそれは全く同じで、PYPは先ほどのMYPの準備プログラムという意味はありません。教育の本質のところは全く違ってきますから。ただ、IBの理念や方法などについてはしっかりとIB教育の要素を持っているということで、要するにIBの初等教育バージョンという風に考えていただければと思います。理念などといったものはもちろんIBプログラムですから、PYP・MYP・DPというもののなかで一貫性はあるのですけれども、具体的に教室でやっていく事柄については、PYPとはMYP・DPとはかなり違う内容でのアプローチになっています。

もう一つ、今日は用意して来ていないのですが、2012年にIBキャリア・リレйтиッド・プログラム、IBCPと言うのですが、高校を出て社会に出て行く高校生のためのプログラムができています。先ほども触れましたが、どうしてもIBというのは大学進学のための特別プログラム、非常に限定された子どもたちのために存在しているというような誤った認識というのがあって、IBもそれは非常に気にしているところがあり、高校を出て社会に出て行く子どもたちのためのプログラムというのを6年前に新しく作ったということがあります。今日は図を持ってきていません。2013年に導入する時にどう考えたかということで、これは文科省のほうの文章をそのまま持って来ていますが、IBというのが一つの方策として活用する価値があるという評価を与えたわけですね。そして、「日本語DPはグローバルスタンダード (IBのような国際教育プログラム) と我が国の要素や実情を適切に調和させる取組でもある」というふうに書いていて。目標は高校200校なのです。今日本では大体4,000校ぐらい高校があるのですけれど、そのなかの200校を、IBを実施する

高等学校にしよう。では残り3,800はどうかと言うと、IB校が一つのモデルになり各都道府県のなかに存在して、その3,800校に影響を与えていこうということで、IBを日本の教育全体のなかに何らかの形で意味を持たせていきたいというのが国のプロジェクトです。200校を生んで終わりというものではないです。その後の方が大事だと僕は考えていて、他の学校に関してどう影響を与えていくかというところが勝負になっていくと思います。

### IB導入に関する文部科学省の考え

- ①IBは、グローバル人材の育成に有益な「ツール」。IBの教育理念は、学習指導要領の考え方やグローバル人材に期待される人材像に近い。我が国の事情を踏まえ、一つの方策として活用する価値。
- ②IBの導入・推進は、必ずしも英語力をつけることのみが目的ではない。
- ③IBで学んだ人材の有為性(優位性)が、大学関係者にも適切に理解いただけることが重要。
- ④日本語DPは、グローバルスタンダード(IBのような国際教育プログラム)と、我が国の要素や実情を適切に調和させる取組でもある。

2番のところは、IBの導入・推進は英語力をつけることのみが目的ではないということで、これも最初はIBといえば英語という感じだったのです。あるいは「国際」と付くと、すぐ「英語」という風にこの国ではなる。そこはこの国が早く超えなくてはいけない、なかなか超えられないところなのですけれど。すぐ「国際交流」は「英語」のような感じになってしまうところがあります。IBについても同じで、「IBをやるためには英語ができなくてはいけない」と。いや、それではできないので日本語DPというものを作ったということがまだなかなか伝わっていないところがあります。

3番は今日のテーマに近いでしょうか。大学関係者にも適切な理解を頂けることが重要であるということは、最初から認識をしています。

加えて、こういうようなことを色々やっていて、基礎的な環境を作らないとなかなか新しいプログラムを現場の中に入れるのは難しくなってくるので。2番目、「DPの導入のため

### 文部科学省の取り組み

- \* 必要な教員確保に向けた取り組み(外国人に対する特別免許状授与の促進等)
- \* DPの導入を促進するための教育課程の特例措置の新設
- \* 『国際バカロレア認定のための手引き』の作成・普及
- \* 国内の大学入学者選抜におけるIBの活用促進

の教育課程の特例措置の新設」で、ちょうど2年前くらいになりますね、2016年8月に学校教育法施行規則が改正になりました。そして日本の学習指導要領とIBのディプロマ・プログラムを重ね合わせて、「IBのこの科目は学習指導要領上のこの科目をやったことになる」というような重ね合わせを法的に確かなものにしました。これをやらないと日本の高校生たちは学習指導要領をやらなくてはいけないので、それとIBのカリキュラムをやるということは、単純に考えて2つのカリキュラムをやるということですから2倍になってしまいますよね。僕が最初に見たいくつかのIB導入校では、子どもたちは本当にいっぱい放課後の部活動をやっている時間がないというとても不健全な状態だったのですよね。これではやる価値がないということで、内容的に向き合わせていて、ここは僕、文科省の初等中等教育局というところと一緒にだいぶ頑張って作ったのですが、重ね合わせをして今、日本の高校でIBディプロマ・プログラムを導入しても通常より少し多いくらいの時間割になっています。放課後、好きな活動をするための時間も取れるぐらいの、ある意味ヘルシーな高校生活をきちんとデザインしてあげているというふうには思っています。

国内の大学入学選抜、IBの普及促進というのは、先ほどの大学も認識が重要というところと重ね合わせて、このような形で国内大学の入試が、特に創価大学も含め37大学はスーパーグ

## IBを活用した国内大学入試

北海道大学 東北大学 筑波大学 千葉大学 東京大学  
 東京医科歯科大学 東京外国語大学 東京芸術大学  
 東京工業大学 お茶の水女子大学 長岡技術科学大学  
 金沢大学 名古屋大学 豊橋技術科学大学 京都大学  
 京都工芸繊維大学 大阪大学 岡山大学 広島大学  
 九州大学 熊本大学 国際教養大学 横浜市立大学  
 関西学院大学 慶應義塾大学 国際基督教大学  
 芝浦工業大学 順天堂大学 上智大学 創価大学  
 玉川大学 東洋大学 法政大学 明治大学 立教大学  
 立命館大学 立命館アジア太平洋大学 早稲田大学…  
 (2014年12月段階) 今後ますます増加!

ローバル・ユニバーシティというものに指定されていますが、そこはIBに対して積極的に取り組まなくてはいけないというふうに御承知のところ、皆さん書いていらっしゃるの、それも含めて今IBを終えた生徒たちを積極的に受け入れる体制ができています。これは文科省の資料をそのまま持ってきたのですけれども、少し古いので、載っていない大学も今は存在しているような状況です。

このことは皆さんご存知ですよ。[主体的で、対話的で深い学び]。2020年という皆さん東京オリンピックやパラリンピックとすぐ思われるかと思いますが、教育界では学習指導要領が変わる年。戦後最大の改革と言われている新学習指導要領です。なぜかを簡単に言うと、今までは内容の多さや、どのくらいやるかなど、何を教えるかといったようなところでずっと議論が延々とされていて、10年に1回、日本のナショナル・カリキュラムは変わりますので、20年前のキーワードは「ゆとり教育」だったのです。ガツと減らした。「これやりすぎ」というふうに、子どもたちはもっと子どもらしく生きたほうが良いという、ゆとり教育が出たとき日本中、大歓迎したのですよ。「やっと子どもを受験地獄から救済できる」みたいに。多くの方が良い選択だと思ったはずなのですが、残念ながら上手くいかなかった。そこは今日の主題ではないので触れませんが、ですからその次の10年目の新学習指導要領のキーワードは「脱ゆとり」だったのですよ。ゆり戻しが

あった。

その10年後、今回はもう量とかではなくて、いま日本の教育が最も問わなくてはいけないのは方法なんだ、内容ではない、量ではない、方法を初めて問う。というので主体的な、そして対話的で、深い学びというのは、今までの「覚えて終わり」ではなくて、それを一歩進めた、英語で言うと to know という状態から to understand に持っていこうというふうに言うと分かりやすいかもしれませんが。そういう学びに持っていくんだ、そのための方法をこれからしっかりと教育現場で実行していこうというのが2020年の新学習指導要領のキー・コンセプトになっているわけですが。実はその先行的なモデルとして、IBの導入というのが位置づけられているというふうに考えていただければと思います。

どうしてIBの子どもたちは世界中の大学で歓迎されるのかということ、内容を説明することによって行いたいと思います。

IBの「学習の方法」と「指導の方法」	
The IB approaches to learning skills 「学習の方法」	The IB approaches to teaching skills 「指導の方法」
1. Thinking skills (思考スキル)	1. based on inquiry (探究を基盤とした指導)
2. Communications skills (コミュニケーションスキル)	2. focused on conceptual understanding (概念理解に重点をおいた指導)
3. Social skills (社会性スキル)	3. developed in local and global contexts (地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導)
4. Self-management skills (自己管理スキル)	4. focused on effective teamwork and collaboration (効果的なチームワークと協働を重視する指導)
5. Research skills (リサーチスキル)	5. Designed to remove barriers to learning (学習への障壁を取り除くデザイン)
	6. informed by formative and summative assessment (評価-形成的評価と総括的評価を取り入れた指導)

IBは結局、今見ていただいている左側の5つのスキルを身に付けるための教育なのですね。3歳から18歳まで、その年齢に応じてこの5つのスキルを身に付ける。それがIB教育の具体的な目標です。ですから、このスキルを身に付けている高校生たちを世界の大学は本当に歓迎する。高等教育への準備がしっかりできている。IBを終えた僕の教え子たちは、初めてIBではない教育を受けた生徒、例えば日本の学生と会ったときに、「大迫先生、日本の高校

って何を教えているのですか」と。それはIBを終えた教え子たちが何回も僕に問うてきた質問です。これを徹底的に鍛えられた高校生たちにはもう一つ、後で触れますが attitude (態度) というのがあるのですよね。だからIBの生徒たちが世界の大学にすごく歓迎されるのは、高等教育の準備としてのスキルと attitude というのを身に付けている。歓迎されないわけがないということになるかと思います。

右側の「指導の方法」と書いてあるのが、IBの指導の方法で「探究基盤、概念理解、地域的な文脈とグローバル文脈、効果的なチームワークと協同、学習への障壁を取り除くデザイン、評価」というようなこと。これを一つずつ僕自身、大学の教員養成の講義でこころを丁寧に彼らとやっているのですけれども、これ全体を簡単に言えば、もし皆さん方が日本で初等・中等教育を捉えていたら、皆さん方が受けられてきたその教育とは真逆の状態の教育であると言ってよいかもしいです。

5番は少しわかりにくいので説明すると、「学習への障壁を取り除くデザイン」というのは、辞書的な意味では反対言葉ではないのですけれども、敢えて言うとこれの反対は「画一的・斉教育」という意味になります。子どもたち一人一人に絶対に何らかの壁がある。ある単元を学ぶときに、「Aさんはここが壁になっている」「Bくんはここを取り除いてあげないと先に行けない」「Cさんはこういうところでどうしてもつまづいている」。それぞれの壁があるのでそれぞれをきちんと取り除いてあげて、AさんにはAさん用に、BくんにはBくん用にアプローチをしてあげてやっと先へ行けるといって、それがこの5番の意味になります。

IBの教室ではこの1～6というものを指導の方法として、IB教員が実施しています。

もう一度プログラム図で、外側に名称があって、2枠目が教科です。言語と文学、言語の習得、これは第一言語と第二言語、言語が2つあります。IBは7歳から第二言語を勉強すると



いうふうに決まっています。それは言語を学ぶということが国際理解ということの基本的な事柄で、言葉をできるようになるというのは全然関係なく、他の言語が存在しているということを知るといって自体に国際理解の原点を置いていますので、7歳からやるのですけれども、18歳まで2言語を学びます。

個人と社会は社会、数学は数学、理科は理科、そして芸術は必修。東京大学は大体3,000人くらい1学年が入るのでだけれど、その3,000人のうち高校3年生のときに芸術を履修していた生徒はどれくらいいるのでしょうか。ほとんどいないと思います。いわゆる受験進学校というのは高校1年生で芸術科目は終了してしまう。なぜなら、受験に関係ないから。東大などで芸術を高3までやっていた学生は、おそらく東京芸大か東大か最後まで迷っていたような、非常に例外的なケースだと思っています。

しかし、IBの場合、修了生は世界を代表する名だたる大学に行くことが少なくないのですけれども、彼らは高3まで芸術をやる。全員必修なのです。この6科目は必ずやり続けなくてはならない。僕はこの1点とってだけでも日本の教育を変えるヒントになるというふうに非常に強く思っているところがあります。

リベラルアーツ、18歳までは万遍なく人間の基礎を形成するために必要なことはやるのだという考え方に基づいてのプログラムであると言えるかと思います。

「知の理論」・「課題論文」・「創造性、活動、奉仕」というのは、教科学習より重要なもの。

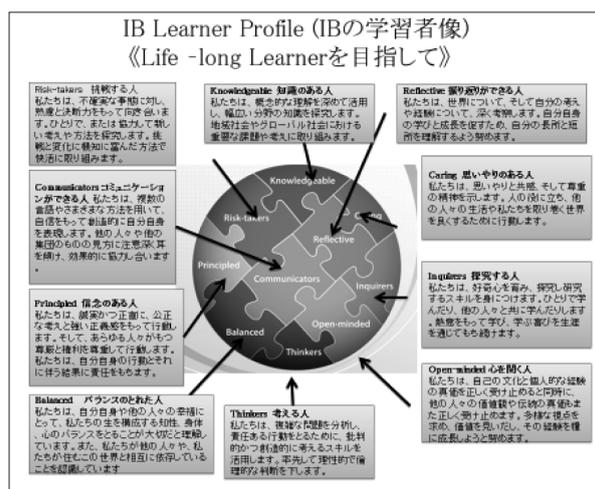
「知の理論」は何を学ぶのかというと、メタ認知のような学びなのですが、「知る」ということはどういうことか、「数」というのはどういうものなのか、「歴史」というのはどういうことかということを読んで、外側の個人と社会の科目を学ぶというような構造になっています。

それから「課題論文」というのを最後、プログラムの修了時に書き上げていく。6つの教科群の中から一番興味を持った教科の事柄をテーマにして書くのです。それから下にある「創造性、活動、奉仕」、これは実際に読んで字の如しで、創造性は様々なことを創造していく。活動というのは自分で様々なプランを立てて、様々な活動をしていく。奉仕というのはボランティア活動的なことをやっていく。これをやらなくてはならないという決まりがあり、「創造性、活動、奉仕」を含め、コアというこの「課題論文」、「創造性、活動、奉仕」、「知の理論」をきちんと完了できないと、仮に外側の6教科群がものすごく優秀でもIBの修了証書はもらえないということになります。そこにIBの価値観というのが明確に示されています。

そしてさらに、指導の方法、学習の方法というのは先ほどご覧いただいた表なのですが、さらに内側にIBの学習者像というのがあり、今日それだけお手元にお渡ししています。IBのプログラムの中心です。ここにたどり着くのがIBの目標であります。

お手元に、「IB Learner Profile」(IBの学習者像)《Life-long Learnerを目指して》と書いてあると思います。この「Life-long Learner」もIBのキーワード。

今日キーワードというのをいくつかお示していますが、IB mission statement、「mission statement」というのは欧米系の教育機関では必ず持っていると言っても良い、最上位概念と言われる最も重要とされる文章のことです。



IBのmission statementには、「IBは多様な文化の理解と尊重の精神を通じてより良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心・知識・思いやりに富んだ若者育成を目的としています」と書いてあります。より良い、より平和な世界を築くことに貢献するということが、国際標準プログラムとしての明確な目標を掲げている。繰り返し申し上げますが、18歳、19歳段階でどこかの大学へ進むなどということは人生の一つの通過点であって、IBの目標でも何でもありません。IBは最終的には自分が学んだことで、自分自身もそして自分の周囲の人そして地域さらには世界というものに対して、どれだけ自分の学びを活かして貢献できるかということが学ぶことの意味なのだという明確な考え方を持っています。

加えて、今Life-long Learnerをお見せするためにmission statementを読んでいますが、IBのプログラムは世界各地で学ぶ児童・生徒に人が持つ違いを違いと理解し、自分と異なる考えを持つ人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることができる人として、積極的にそして共感する心を持って生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

最も重要とされる位置にある、mission statementの中にLife-long Learner(生涯にわたって学び続ける人)という言葉が明確に入っている。そしてこれも先ほどの平田オリザさんの話に重なる部分ですが、自分と異なる考えの人々にもそ

それぞれの正しさがあり得るといふ異文化理解の原点のような、出発点でもありゴールでもあるというふうを考えるのですけれども、それもIBのmission statementの中に明確に言語化されているということをお伝えしておきたいと思えます。

僕は、この5年間くらい北海道から沖縄まで、様々な所でこのIBに関してお話をたくさんの方々にしてきています。そのなかのいくつかは、いわゆる先生方に対してIBを説明するという、例えば山梨県だと、山梨県甲府西高校というのがIB校になるのですけれども、そういう先生方のために行くとか、あるいはどこかの東北の県あるいは中国地方の県にも、ここでやっていこうというような所が決まると、どういふものか説明をしていく。場合によっては県の教育委員会から急にIB校になることが伝えられたりするので、先生方にとっては青天の霹靂で、「ええ！」というような感じで、さらにIBと聞くと「今までの教育を全否定するものを自分たちはやらなくてはいけないのか」というような感じで、完全に怒っているのですよね。しかも放課後でしょ、僕がお話に行くのは。1日生徒と一緒にいて、かつ、ブラックとか言われていますけど部活動もやり、クタクタのなかで東京から何か説明があるといふと、雰囲気がいいはずがないですよ。そういうときに限って、「大迫さん行ってくれ」と言われて、入った瞬間に「今日帰れるかな」ということがあります。

しかし、最初はそういう雰囲気でもやり始めても段々「あ、もしかしたら…」となる点が2つあります。1つは「戦後75年我々がこの国でやってきた教育は決して間違っていない」と。日本の国が今様々な問題があるけれど、とりあえず今私たちはこの場でこうやって教育について語り合えるといふような、こんな状況を見れば、これだけ平和で安定的で穏やかで、世界的に見るとやはりこの国は恵まれた状況で、1945年本当に何もなかった国がここまでになったの

は、これまでの教育を皆で力を合わせてやってきたからではないか。これを否定するのはこの国を否定することに繋がるということ、僕は明確に言います。「皆よく頑張ってきたんだよ、皆で力を合わせてやってきたんです」と。それについて明確にメッセージを出すと、皆さん方「あっ、もしかしたらコイツは話が分かるかもしれない」という雰囲気になってきますよね。

その後、ここを示したときが2点目です。「これがIBが目指すものです」といふふうにお見せしたときに、「自分が何年か前に、何十年か前に、先生という仕事を選ぼうと思ったときに、自分が会おう子供たちはこんなふうになってくれたらいいなと夢を描いていた。それがここにあるな」と感じる先生が圧倒的に多い。だからIBってそんなに遠いものではない。「自分たちが教育という仕事を選んだときに大事に思っていたことと、IBってあまり距離はないな」と。そのときにだいたい雰囲気が変わります。

さらにプログラムについて様々な話をしていくと、すごく悪かった雰囲気が変わるのでありますよね。100%ではないですよ、どこの職場でも反対は必ずありますから。しかし、ほとんどの先生が「もしかしたら今自分が持っている子どもたちのために少しこういう要素を入れてみようかな」と、心が動いているのが見えるのですよ、ここから。

だから僕は、まだこの国は大丈夫だとそのときは深く思います。もし逆であったら、最後まで「関係ねえ」と言い続けるような環境であると、「大丈夫かな」と思ったりもしますが。5年以上、IBのことを伝えるなかで、そういう反応というのが本当に北海道から沖縄まで、日本の先生方はやはり生徒想いといふのをしみじみ感じます。自分の子どもたちのためであったら頑張らなくてはいけないんだと思う先生が圧倒的に多いといふことを感じます。もしそうでなければ僕は途中で折れていたといふのですけれども。

それがこのIB Learner Profileといふもの

で、僕が語りたことになります。例えば、Caring。「私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界をよくするために行動します。」。

Open-minded、心を開く人。「私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価にもまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます」。Open-minded というと個と個との関係で作られることが多いのですが、IB の場合は個と個の関係以外に異文化間に関しての Open-minded というのを明確に示しています。それがやはり国際標準プログラムとしての卓越した部分であると思うのですが。

Principled、信念のある人。「私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます」。というように、3 つほどピックアップしましたが、また後ほど時間のあるときにお手元にある Learner Profile というのを見ていただければと思います。日本の家庭によくあることですが、冷蔵庫等に貼っていただくと日常的に目に留まって良いかと思えます。

IB Learner Profile の「Learner」という単語だけに、最後、注目してお話したいと思います。一般的にこういうものは、例えば「IB Student Profile」、IB の児童・生徒像というふうになることが多いかもしれません。だけれど、IB はここを「Student」ではなくて「Learner」というふうになっています。Who is a learner? Learner は誰でしょう。もちろんそれは児童・生徒であります。と同時に、先生方も含めるのですね。それから parents、保護者も含める。関係ある全ての人、IB コミュニティというのですけれども、全ての人が目標を共有して、子供たちだけに強いるのではないというような考

え方に基づいて Learner という言葉があります。

最後のセクションです。IB が育てる地球市民とは。我々は IB ペーパーと呼ぶのですが、IB の文章からその説明をします。何回も見ていただいているプログラム図の一番下のところに「国際的な視野」というのがあります。先ほど MYP、PYP のプログラム図、それから IBDP ももちろんそうなのですが、必ずこの円の一番外側に「国際的な視野」、英語で言うと International-mindedness と言うのですけれど、それが掲げられています。このプログラムに掲げられたモットーというようなことになりますでしょうか。

IB ペーパーによると、それはこういうような形で構成されます。「人類に共通する人間らしさと、地球を共に守る責任の認識というものを持ったときに、国際的な視野を持つということが実現される」「世界に対する開かれた態度と人間が相互に関わり合っているという認識に基づく考え方、あり方、行動というものが合わさった時に、国際的視野を持つということが実現できる」「自分自身のものの見方・文化・アイデンティティの振り返りと、他者に対する同様の振り返り」。少し長かったので、ここはこういう表現をしましたが細かく言うと、「他者のものの見方・文化・アイデンティティに対する同様の振り返り」ということになります。これを 2 つ合わせ持ったときに国際的な視野というものを獲得できるだろうというのが IB の考え方です。

先ほどの「国際といえば英語」というのは卒業できてきているのかなと思うのですが、民族的アイデンティティとして英語に対してどうしても抜けられないところがあって、まだ完璧ではないかもしれないけれども「英語ができるからといって国際人ではない」というのはほぼ共有されているかなと思います。英語が滅茶苦茶下手であっても、先ほどの Principles、信念のある人という Fairness 公正さがあれば、

世界の人たちと一緒に動ける。この人は人間として信用できるかどうかというものがきちんとあれば、言語が多少たどたどしくても絶対に繋がることができる。逆に言語が流暢でも、「この人は人間的に信用できないな」となれば共に生きることができないと思うのですよね。そういう意味で言語・英語というものと、いわゆる国際性というものはそのままイコールではないというのはほぼ共有、認識されていると思うのです。

もう一つあるのが、「国際」というと、「自分のことあるいは自国のこと日本のことを蔑ろにしているのではないか」というような、「外にばかり目が向いている」と。僕もある会場で質問を受けたことがあります。「お前は日本のことをどう考えているんだ」というふうに言われて。そういう質問をされる方ですから、だいたい雰囲気は分かると思うのですけれども。それ以降同じような企画の時は必ず入場者チェックというのが始まったのですけれども。僕はそのとき正直に「僕は日本国籍を持っている日本人です。僕は自分の祖国、母国である日本をものすごく愛しています」と明確に話をしました。と同時に、「他の国に対しても同じような気持ちを持ってたらいいなというふうに思っている」と答えました。その方からは「よし」と。こちらとしては「ありがとうございました」と思いましたが。

それは本当にそうなのですよ。だから「国際」というと自分の国のことをよく見ないで外へ行ってしまうというイメージがあったとすれば、子どもたちを絶対そういうふうには持ってはいけなくて、まず自分のこと、自分たちの国・文化・歴史や家族や仲間を大事にして、そこから「国際」という学びがスタートしていくというのはすごく大事なことなので、今見ているページはそれのことを言っていると思います。

以上、IBの教育プログラムについて細かなお話をするというのは本当に時間が必要なこと

で、大学ですと15時間という講義全体で1つのプログラムをやる、それでも学生がまだ分からないというような性質のものなので細かくお伝えできないのがとても私自身も申し訳ないと思うのですけれども、「こういうものなのかな」と多少なりの興味でも持っていたらばお話をさせていただいた甲斐があったかと思います。ご清聴ありがとうございました。

司会：大迫先生、ご講演大変にありがとうございました。

# For Future Global Innovators

～国際バカロレア教育についての講演会及び学校説明会～

2019(平成31)年4月開校予定

## 大阪市立水都国際中学校・高等学校が めざす教育とは？

### 日時

平成30年

**2月25日(日)**

13:30～15:30 (受付／13:00～)

### 内容

13:00 受付

※返信はがき(入場券)をご提示ください

13:30 開会式

13:40 **第1部 講演会**

○「覚える教育から考える教育へ」

～今、なぜ国際バカロレアなのか～

講師: **大迫 弘和** 先生

(武蔵野大学教育学部教授、都留文科大学特任教授)  
これまで多くのIB校の校長などを歴任

14:30 **第2部 学校説明会**

○学校の理念・学校像

○教育活動の概要

入学者選抜制度、進路指導、制服、部活動等についての  
詳細は、平成30年6月以降にお知らせする予定です。

15:25 閉会式



- 参加費 無料
- 対象 保護者、児童生徒、教育関係者等
- 定員 400名(事前申込が必要です)
- 申込 裏面をご覧ください

### 会場

**大阪市教育センター2階講堂**

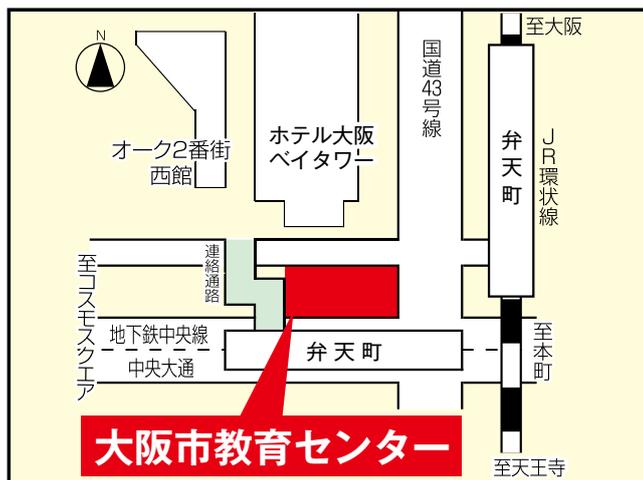
所在地: 大阪市港区弁天 1-1-6

アクセス:

JR環状線「弁天町」駅 南出口を西へ150m

地下鉄中央線「弁天町」駅 2番出口(2B)左へ20m

※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。



主催 大阪市教育委員会

# 将来の大阪を担っていく人材を育てるために

大阪市教育委員会では、日本初の公設民営による中高一貫教育校を、2019(平成31)年4月、南港ポートタウンに開設する準備を進めています。この学校(大阪市立水都国際中学校・高等学校)では一部のコースで、国際バカロレアプログラムの導入を予定しています。  
今回の講演会及び学校説明会では、国際バカロレアや学校の概要についてお知らせいたします。

## 国際バカロレア(IB)とは？

国際バカロレア(IB: International Baccalaureate)は、世界140以上の国・地域、約4,800校(平成29年6月現在)で採用されている国際的な教育プログラムで、平和でより良い世界に貢献できる若者の育成を目的としています。

高校3年生で受ける認定試験で一定の成績を取めると、国際的に通用する大学入学資格を取得できます。

■詳細につきましては、当日、大迫弘和先生からご講演いただきます。

## 大阪市立水都国際中学校・高等学校の特色

### 大阪市(設置者)



学校法人  
大阪 YMCA  
(指定管理法人)



管理・運営

- 外国語教育と国際理解教育に重点を置いた教育を行います。
- 一部の教科で、専任外国人教員による英語を用いた授業を実施します。
- 自国の伝統や文化を理解し、世界に向けた発信力を高めるとともに、グローバルな視野に立って主体的に行動できる人材を育てます。



国際バカロレアの導入に際しては、申請から認定までに、関心校、候補校、認定校の段階があり、各段階には明確に区別された申請項目とタイムラインがあります。IB認定校を目指す全ての学校はこの各段階を経る必要があります。IBOが認定の可否に関する裁量を有しています。(水都国際高等学校は2018(平成30)年1月時点では関心校です。)

### ●申込方法

次の【往復はがきの書き方】を参照のうえ、往復はがきにすべての項目を記入し、下記あて先までお送りください。1枚のはがきで3名までお申込みいただけます。  
なお、申込数が定員(400名)を超えた場合は、抽選とさせていただきます。

#### 【往復はがきの書き方】

〈往信の表面〉

〒530-8201 大阪市北区中之島 1-3-20

大阪市教育委員会事務局 総務部 教育政策課 公設民営学校グループ 宛

〈返信の裏面〉 何も書き込まないでください。

〈返信の表面〉 返送先の郵便番号、住所、名前を記入してください。

〈往信の裏面〉

- 参加人数( )名 ※3名以内
- 参加される方それぞれの ①名前(ふりがな) ②年齢 ③住所
- 事前質問がございましたらお書きください。当日の参考とさせていただきます。

#### 【申込締切】平成30年2月7日(水)必着

当日は返信はがき(入場券)を受付にてご提示ください。

※返信はがき(入場券)をお持ちでない方は当日入場できません。ご了承ください。

返送先の記載不備等による不着の際は責任を負いかねますので、あらかじめご注意ください。  
郵便料金が不足している往信はがきは受付できません。返信分の郵便料金が不足しているものについては無効とさせていただきます。

ご記入いただいた個人情報は当講演会・説明会の参加受付に関わる事務作業にのみ使用します。

〈往信の表面〉

530-8201	大阪市教育委員会事務局
往信	総務部 教育政策課
	公設民営学校グループ 宛
	大阪市北区中之島 1・3・20

〈返信の裏面〉

何も書き込まないでください。
入場券(抽選となった場合は、その結果)を印刷し、2月14日頃発送を予定しています。

〈返信の表面〉

〇〇〇-〇〇〇〇	返送先の郵便番号・住所・名前を記入してください。
返信	

〈往信の裏面〉(例)

参加人数	2名
すいと はなこ	
1 水都花子	45歳
	大阪市〇区〇〇1-2-3
すいと たろう	
2 水都太郎	11歳
	同上
質問	
	_____
	_____
	_____

お問い合わせ

大阪市教育委員会事務局 総務部 教育政策課 公設民営学校グループ

〒530-8201 大阪市北区中之島 1-3-20

Tel : 06-6208-9747

Mail : ua0078@city.osaka.lg.jp

唯一無二の探究型学習で

# リベラルでフェアな 新しい紳士」を育成する

海城中学高等学校(東京都新宿区)は、1891年(明治24年)創立の海軍予備校を前身とする。東京大学の入学試験合格者数は、常に全国上位。受験だけでなく、公平性や自由などを重んじる教育方針について、詩人でもある大迫弘和校長に聞いた。

取材・構成◎山下 亮 (読売新聞教育ネットワーク事務局) 写真◎多田貫司 (同)



海城中学高等学校 大迫弘和 校長

## 「生徒主義」を貫く

—海城中学高等学校の伝統についてうかがいます。

海城は、今年で135年目を迎えました。伝統校の校長としての使命は、培われてきた教育に敬意を示し、それを大切にし、同時に望むべくは学園をさらに発展、前進させていくこと。校長就任以来ずっとそのことを考えています。

—どのような構想をお持ちですか。

海城に集った「海城生」たちの一人一人を徹底的に大切にしていきたいと思います。つまり、「生徒主義」を貫くことです。一人一人を大切に思ういは、教職員に対しても同じです。生徒と教職員を徹底的に大切にするという二重性が備われば、海城は爆発的な力をつけていけるでしょう。

—「爆発」とは。

芸術家の岡本太郎さんの名言「芸術は爆発だ」にあやかっただのですが(笑)。単に、大学合格者数が増加する、という意味ではないです。130年以上にわたり培われてきた海城

の教育が、ガッツと一気に飛躍するようなイメージ。それを表現しました。

—生徒の学力をサポートする仕組みには、どんなものがありますか。

元々、学力的には本当に恵まれた生徒たちが集って来ていますが、やはり得手不得手はありますから、中学1、2年時には、個々の学力に合わせた「指名講習」の制度を設け

ています。これに指名されたら必ず出席しなければなりません。なお、進学校ですので、高校3年時には、

大学名を冠した講座などを多数用意しており、受験体制を強化します。

## 専門性の高い授業

—2025年度入試で、東京大学の合格者数は49人。高い実績を支える先生方をどう評価していますか。

それぞれの担当教科の専門性は極めて高いです。準備される教材や展開される授業は大変ハイレベルで、先生方はまさにプロフェッショナルな教員集団です。高い進学実績を維持するための研鑽は、自主的に行っており、教育に対し、とても誠実に向き合っているのが分かります。海城の強みはここにあります。先生方が思う存分力を発揮できる環境を整えていくのが僕の仕事だと考えています。

—例えば、どのようなことですか。

中等教育の時期は、人間としての発達段階にあるので、当然いろいろなことが生徒たちに起こり得ます。そのような不安定な時期だからこそ、僕から生徒たちに「自由」の意味をしっかりと伝えていきます。

—自由について伝えるとは。

僕は、海城にある自由は「秩序的自由」であると思っています。自由とは、やりたい放題を意味しません。人間として許されないことには、「ノー」と言うべきです。この秩序的自由について、僕は「海城の自由」という詩を生徒たちのために書きました(<https://www.kaijo.ed.jp/poems/35829>)。そのような秩序的自由がある中で、先生方が安心して専門性を磨くための時間を割けるように、校長としての責任を担っていきます。校長就任1年目から、1000人ほどの全教職員に対し、学年初めにおよそ10分間の個別面談を行っています。教職員の皆さん一人一人が大切な存在であるという僕からのメッセージでもあります。

—ご自身は、探究型概念学習を本質とする国際的な教育プログラム

「国際バカロレア(IB)\*」の普及に長く努めてこられました。

1991年以来、IB教員としてIBに携わってきました。例えば海城が大切にしてきたものとして「公平性」というものがありますが、これはIB教育の教育方法でもありません。一人一人が抱える学習上の障壁を取り除いて、次のステップに進ませるということが、IBの指導でも非常に大切にされています。

また、IBの核である「探究」、これも海城では以前から行っています。中学では、独自に「社会I・II・III」という総合学習を設けています。30年前から行われている海城の名物授業のひとつで、教科書を使わず、社会問題などをテーマに探究型の授業を展開してきました。

2021年夏には、化学、物理、生物、地学すべての実験室を備えた地上3階建ての「サイエンスセンター(新理科館)」が完成し、こちらでも探究型の学びを深めています。



英国での海外研修に参加した高1、2年の生徒ら(写真提供◎海城学園)

——著名人に「海城学術顧問」をお願いしていますね。

私の校長着任後に始めたもので、海城生の知的好奇心、社会的問題意識、芸術的感性に大きな刺激を与えてくださるであろう方々に就任をお願いしました。私の友人で様々な分野で活躍されている8人の方々が引き受けてくださっています。

例えば、詩人の仲間であるシンガー・ソングライターに加藤登紀子さん。23年9月、24年10月には、高校2年生が修学旅行で沖縄県に向かう直前、加藤さんに平和教育をテーマに講演していただきました。歌まで披露していただき、一般のコンサートのだったらファンが押し寄せるような、感動的な講演でした。海城生のために詩を書くこと、海城学術顧問など、僕がやれることを惜しみなく海城にささげていければと思います。

## 八ヶ岳を目指す

——卒業生は多彩ですね。

およそ3万人の卒業生は、等しく海城愛に満ちています。同窓会であ



サイエンスセンターの外階段を使って、チューブ内の水の高さで大気圧を測る実験をする中学2年の理科II(地学)の授業

る海原会の会長を務めるアナウンサーの徳光和夫さんのように、いろいろな分野で卒業生が活躍しています。学校の運営法人「海城学園」の古賀喜博理事長が、「国内最高峰の」富士山だけではなく、八ヶ岳を目指せばいい。いろいろな山々が存在する中で、それぞれの頂上を目指すのが海城だ」と話したことがあります。その通りだと思いますね。海城では「どこどこ大学を目指さない生徒の面倒は見ない」などというようなことはあり得ません。教育で大事なものは、生徒たちが「どうやって生きて



総合学習「社会III」の授業で、それぞれの発表に対して意見交換する中学3年の生徒ら

いきたいのか」「何を学びたいのか」「どう社会貢献したいのか」を考える中で、自由に進路を選択できることです。それぞれの頂上を目指す生徒に対し、我々教職員は公平に、全力でバックアップしていきます。

——目指す生徒像とは。

さきほど「秩序的自由」について話しましたが、そこに、「選択の自由」、「精神の自由」、そして「行動の自由」も加えたい。これらが保障されれば、生徒たちは伸び伸びと人間として成長していくでしょう。

海城ではリベラルでフェアな精神

を持った「新しい紳士」の育成を目指していますが、僕は、「新しい紳士」には「マナー」や「上品さ(decency)」も大事だと思っています。先生と生徒との間だけでなく、生徒同士や家族内でもそう。さらに、自分と異なる文化や言語を持った人たちに對しても、マナーを守ることが、上品であることが、新しい紳士としての大切な要素だと考えています。

\* 国際バカロレア(IBC)

1968年、ジュネーブで誕生した国際標準プログラム。「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成」を使命として掲げている。2013年から文部科学省もIBCの国内普及を推進している。

## おおさこひろかず 大迫弘和さん

1953年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。学校長や大学教授、文部科学省国際バカロレア日本アドバイザリー委員会委員などを経て、2023年、海城中学高等学校の第14代校長に就任した。教育関係の著書や詩集多数。詩人の谷川俊太郎氏とも交流が深かった。

